

**2022年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
200・300番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【F9102】 Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6001】 第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6002】 第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6003】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6005】 第三外国語としての朝鮮語 A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6006】 第三外国語としての朝鮮語 B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6051】 日本語コミュニケーション A [副島 健作] 春学期授業/Spring	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6052】 日本語コミュニケーション B [副島 健作] 秋学期授業/Fall	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6101】 漢字・漢文学 A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学 B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	11
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミ I [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミ II [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6105】 文芸創作講座 A [グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6106】 文芸創作講座 B [グアリーニ レティツィア] 秋学期授業/Fall	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6107】 日本芸能論 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6108】 日本芸能論 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論 A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論 B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論 A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論 B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間 A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間 B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論 A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論 B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6117】 行為の理論 A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6118】 行為の理論 B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミ I [森村 修] 春学期授業/Spring	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミ II [森村 修] 秋学期授業/Fall	33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化 A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化 B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会 A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	41

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズ A [グアリーニ レティツィア] 春学期授業/Spring	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クィア・スタディーズ B [グアリーニ レティツィア] 秋学期授業/Fall	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史 A [吉田 敬介] 春学期 授業/Spring	45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史 B [吉田 敬介] 秋学期 授業/Fall	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論 A [山本 そ のこ] 春学期授業/Spring	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論 B [山本 そ のこ] 秋学期授業/Fall	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミⅠ [矢澤 美佐紀] 春学期授業/Spring	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6143】 イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6144】 イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6204】 教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6205】 教養ゼミⅠ [水野 和夫] 春学期授業/Spring	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6206】 教養ゼミⅡ [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6207】 福祉社会論 A [菅野 摂子] 春学期授業/Spring	57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6208】 福祉社会論 B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春 学期授業/Spring	59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋 学期授業/Fall	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学期 授業/Fall	61
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学 A [宇野 カオリ] 春学期授 業/Spring	62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学 B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6219】 沖縄を考える A [明田川 融、大里 知 子] 春学期授業/Spring	65
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6220】 沖縄を考える B [明田川 融、大里 知 子] 秋学期授業/Fall	66
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6223】 教養ゼミⅠ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	67
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6224】 教養ゼミⅡ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌 A [加藤 美 雄] 春学期授業/Spring	69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌 B [加藤 美 雄] 秋学期授業/Fall	71
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界 A [池田 宏一郎] 春学期授 業/Spring	74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙 A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙 B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	77
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術 A [井坂 政裕] 春学期授 業/Spring	78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術 B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	79

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子 A [吉田 智] 春学期授業/Spring	80
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子 B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミ I [川上 裕司] 春学期授業/Spring	82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミ II [川上 裕司] 秋学期授業/Fall	83
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6321】 教養ゼミ I [木原 章] 春学期授業/Spring	85
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6322】 教養ゼミ II [木原 章] 秋学期授業/Fall	86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学 A [向井 知大] 春学期授業/Spring	87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学 B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学 A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学 B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6327】 物質の科学 A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6328】 物質の科学 B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 I T リテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	95
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論 A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論 B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	99
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6339】 教養ゼミ I [中田 和秀] 春学期授業/Spring	100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6340】 教養ゼミ II [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語 A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語 B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級 A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級 B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想 A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想 B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏 A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏 B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化 A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化 B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術 A [辻 英史] 春学期授業/Spring	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術 B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	116

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学 A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学 B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学 A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学 B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6515】 スポーツ科学 A [秋本 成晴] 春学期授業/Spring	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6516】 スポーツ科学 B [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall	148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6533】 教養ゼミ I [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション (中・上級) A [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション (中・上級) B [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	161

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [木部 敬]	
秋学期授業/Fall	162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/Spring	167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授業/Spring	169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級A [周 重雷] 春学期授業/Spring	173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳A [高田 裕子] 春学期授業/Spring	175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳B [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下由紀子] 春学期授業/Spring	186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下由紀子] 秋学期授業/Fall	187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring	188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	195

BIO200LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

リ・自/※定員制 (30 名)

他学部公開: グローバル: ○ 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部: DP3、人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that the classes will be given in the face-to-face format; however, classes will be held in the online format via Zoom in the following cases: 1) First class (in order to assess the number of students); 2) University decides to shift to the online format (to cope with, for example, a change in the COVID situation); and 3) In-class activities requires the online format (in order to, for example, minimize the COVID infection risk). Also note that students who are unable to attend classes in the face-to-face format due to such problems as health issues and issues associated with entering Japan may attend the classes in the online format with permission of the university/instructor.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline (in English)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。
- ・第 1 回授業は、大人数が教室に集中するのを避けるため、「リアルタイム配信型」授業（ZOOM 授業）です。前日までに、Hoppii「お知らせ」欄に、Zoom の URL をお知らせします。「対面型授業」を基本としますが、「リアルタイム配信型」授業も行います。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

「リアルタイム配信型」授業の視聴、ならびに教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制（30 名）です。受講希望者は、第 1 回授業時（2022 年 4 月 12 日）までに必ず Hoppii で「仮登録」をして下さい。初回授業は、「リアルタイム配信型」（ZOOM）で行います。定員を超えた場合、「仮登録」者の中から抽選します。受講希望者は、初回授業を必ず受講すること。「本登録」許可者（受講許可者）は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。単なるお試しだけで、仮登録をした方は、別途、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」（秋学期）も合わせて受講希望の方も、4 月 12 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25%, in class contribution: 25%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得している必要があります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間ありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、＋用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

・わからないことを放置しないようにしてください。
 ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

・小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制（30 人）です。受講希望者は、春学期のはじめ（2022 年 4 月 12 日）までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。受講許可者（本登録許可者）は、4 月 19 日までに Hoppii に掲示します。単なるお試しで、仮登録を行った方は、別途、ご連絡下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25%, in class contribution: 25%.

LANK300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などにつ	授業の進め方について説明します いてと簡単な復習
第二回	今日も友達に会います	読む練習と否定形について か 1
第三回	今日も友達に会います	発音について か 2
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか	発音練習と読む練習について 1
第七回	ここはデパートですか	連体形について 2
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。
- ・第 1 回授業は、大人数が教室に集中するのを避けるため、「リアルタイム配信型」授業（ZOOM 授業）です。前日までに、Hoppii「お知らせ」欄に、Zoom の URL をお知らせします。「対面型授業」を基本としますが、「リアルタイム配信型」授業も行います。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。

14 期末試験 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

「リアルタイム配信型」授業の視聴、ならびに教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制（30 名）です。受講希望者は、第 1 回授業時（2022 年 4 月 12 日）までに必ず Hoppii で「仮登録」をして下さい。初回授業は、「リアルタイム配信型」（ZOOM）で行います。定員を超えた場合、「仮登録」者の中から抽選します。受講希望者は、初回授業を必ず受講すること。「本登録」許可者（受講許可者）は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。単なるお試しだけで、仮登録をした方は、別途、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」（秋学期）も合わせて受講希望の方も、4 月 12 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25%, in class contribution: 25%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間ありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、＋用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

・わからないことを放置しないようにしてください。
 ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

・小テスト・課題の提出 25 %、授業への参画度 25 %、期末試験 50 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制（30 人）です。受講希望者は、春学期のはじめ（2022 年 4 月 12 日）までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。受講許可者（本登録許可者）は、4 月 19 日までに Hoppii に掲示します。単なるお試しで、仮登録を行った方は、別途、ご連絡下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams: 25 %, in class contribution: 25 %.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどういうものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「カタカナ」について	分析の材料として「カタカナ」を取り上げます

9	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
10	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
11	「丁寧体と普通体」について	分析の材料として「丁寧体と普通体」を取り上げます
12	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
13	「外国の人の日本語」について	分析の材料として「外国の人の日本語」について取り上げます
14	授業内試験	以上 13 回分の内容について

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

LANj300LA

日本語コミュニケーション B 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者 (日本人) は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います
6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います
7	「非流ちょう性」について i	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます

8	「非流ちょう性」について ii	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のコま切れ発話」とはなにについて解説します
10	「文節単位のコま切れ発話」について i	「文節単位のコま切れ発話」の特徴について解説します
11	「文節単位のコま切れ発話」について i i	「文節単位のコま切れ発話」の特徴について解説します
12	国語教育・日本語教育における「文節」	「文節単位のコま切れ発話」の規則性が国語教育・日本語教育の文脈において意味するところについて解説します
13	まとめ	これまで学んできた内容についてまとめ、ミスコミュニケーションが起こる原因や理由について議論します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、試験の得点 30 点、レポートの得点 40 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めている。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰

第 9 回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩識」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけでなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み

第 10 回 夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第 11 回 夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第 12 回 他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第 13 回 日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第 14 回 まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかにした問題は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。

第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文）30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning.

You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

グアリーニ レティツィア

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

『白雪姫』を王女の視点から語るとどうなるのか?

この授業では、物語を書き直す意味について考えながら、小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな作品 (あるいは好きではない作品) を選び、違う視点から物語を書き直すという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。

後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4/8 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第 2 回	4/15 小説とは何?	小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第 3 回	4/22 小説の読み方/書き方 (1)	テーマを決める。
第 4 回	5/6 小説の読み方/書き方 (2)	書き出しについて考える。
第 5 回	5/13 小説の読み方/書き方 (3)	時間と場所の設定について考える。
第 6 回	5/20 小説の読み方/書き方 (4)	語り手と視点について考える。
第 7 回	5/27 小説の読み方/書き方 (5)	読者について、そして結末の書き方について考える。
第 8 回	6/3 小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 9 回	6/10 小説を書く (2)	小説を書きはじめる。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	6/17 小説を書く (3)	小説を書き続ける。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	ブラッシュアップ	最終原稿の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第 12 回	講評 1	作品をみんなで読み、講評する。
第 13 回	講評 2	作品をみんなで読み、講評する。
第 14 回	7/15 まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』(河出書房新社、2018 年)

デイヴィッド・ロジ『小説の技巧』(白水社、1997 年)

【成績評価の方法と基準】

グループワークと合評への参加度 (40 %)、学期末までに完成させた小説 (60 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while focusing on the meaning of "rewriting." Students will choose a work of fiction they like (or one they do not like) and rewrite the story from a different perspective.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Group work: 40%

Final project: 60%

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 自分の書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決める。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書く。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。
第 2 回	9/30 テーマの決め方	グループでブレインストーミングを行う。
第 3 回	10/7 ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第 4 回	10/14 小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第 5 回	10/21 小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第 6 回	10/28 時間と場所の移動	物語の設定について考える。
第 7 回	11/11 天気、名前、リスト	物語の詳細について考える。
第 8 回	11/18 小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 9 回	11/25 小説を書く (2)	小説を書きはじめる。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	12/2 小説を書く (3)	小説を書き続ける。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	12/9 ブラッシュアップ	最終原稿の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第 12 回	12/16 講評 (1)	作品をみんなで読み、講評する。
第 13 回	12/23 講評 (2)	作品をみんなで読み、講評する。
第 14 回	1/20 まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室—伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークと合評への参加度 (40 %)、学期末までに完成させた小説 (60 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Group work: 40%

Final project: 60%

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

阿部 真弓

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能 (時代・ジャンルは問いません) について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

なお、授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏑馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	グループ A の発表

第 9 回 受講生による発表・討論 グループ B の発表

第 10 回 受講生による発表・討論 グループ C の発表

第 11 回 受講生による発表・討論 グループ D の発表

第 12 回 受講生による発表・討論 グループ E の発表

第 13 回 受講生による発表・討論 グループ F の発表

第 14 回 まとめ 春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収するリアクションペーパーによります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時にリアクションペーパーに記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式の授業ですが、第 1 回・第 2 回授業はオンライン式授業とします。

受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。受講を希望する人は、第 1 回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、それに従ってください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

なお、授業のはじめに、リアクションペーパーに書かれた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について
第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。

第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収するリアクションペーパーによります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時にリアクションペーパーに記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

基本的に対面式の授業ですが、第 1 回・第 2 回授業はオンライン式授業とします。

受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。受講を希望する人は、第 1 回授業日までに、学習支援システム上の当科目の「お知らせ」をよく確認し、それに従ってください。

なお、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論 A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・ブレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス (1)	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について

13 モダン・ダンス (2) ペジャール、パウシュ、フォーサイス等の実践について

14 講義のまとめ 春学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』(ちくま文庫)
シェイクスピア (福田恆存訳)『ハムレット』(新潮文庫)
シェイクスピア (安西徹雄訳)『リア王』(光文社古典新訳文庫)
日本演劇学会『ベスト・ブレイズ 西洋古典戯曲』(相田書房)
岩瀬孝『フランス演劇史序説』(早稲田大学出版部)
邦正美『舞踊の文化史』(岩波新書)
鈴木晶『バレエの魔力』(講談社現代新書)
長野由紀『バレエの見方』(新書館)
三浦雅士『バレエ入門』(新書館)
舞踊教育研究会『舞踊学講義』(大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama and ballet, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre or ballet critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について分析し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン身体表現について
3	レビュー	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20 世紀日本のアンガラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
9	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
10	ミュージック・ビデオ	ミュージック・ビデオの形成過程と身体表現について
11	テーマ・パーク	ディズニー・ランドの空間構成と身体表現について
12	アニメーション	アニメーションの歴史と身体表現について

- 13 事例研究（1）『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』を素材に、男性が女性をプロデュースすることと身体表現の関係を考察する。
- 14 事例研究（2）『ミー・アンド・マイガール』を素材に、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から舞台鑑賞をするように努める。（映像を含む）

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アピニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリ）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チューホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will demonstrate the ability of analyzing various body expressions seen in the field of popular culture, connecting them with social aspects of body movements. Accordingly, they will provide a critical overview of the human body used in popular media.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many shows as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final Paper 50%.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践 (アイディアや制作論)
について段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業内容の違いですが、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

授業当日の出席及び実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

授業内容に関する質問については Google Form で、一般的な質問や相談については Google Classroom を通じてお願いします。

オンラインミーティング・講評会

みなさんからのリクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
4/11	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/18	古代美術 (原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術)	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。
4/25	中世美術 (初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術)	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。

5/9	近世美術 (ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術)	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、バロック美術で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
5/16	ワークショップ 1	単元の復習 (古代美術、中世美術、近世美術) ワークショップ「伝える方法・絵から文字へ」
5/23	近代美術 1 (新古典主義、ロマン主義、写実主義)	古典 (ルネサンス) への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義について学びます。
5/30	近代美術 2 (印象派、新印象派、ポスト印象派)	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。
6/6	ワークショップ 2	単元の復習 (近代美術 1、近代美術 2) ワークショップ「デッサンの手法」
6/13	近代美術 3 (野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー)	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッホ、セザンヌは、印象派以降の 20 世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
6/20	近代美術 4 (未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スタイル、バウハウス、ロシア構成主義)	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュルレアリスムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動 (前衛芸術) である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイディアが登場します。
6/27	ワークショップ 3	近代美術 3 近代美術 4 単元の復習 ワークショップ「シュルレアリスムの実験」
7/4	現代美術 1 (レトリズム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオダダ、ポップアート)	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/11	現代美術 2 (ミニマルアート、コンセプチュアルアート、新表現主義、YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート)	1960 年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSD を使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニウム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント (Young British Artist / リレーショナルアート) についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
7/18	ワークショップ 4	現代美術 1 現代美術 2 単元の復習 ワークショップ「テキストとアート」

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点 (授業への取り組み)、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

評価の具体的な指針についてはルーブリック を参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

美術論 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論

より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業内容の違いですが、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

授業当日の出席及び実習課題とレポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問・相談

授業内容に関する質問や相談については Google Form で、一般的な質問や相談については Google Classroom を通じてお願いします。オンラインミーティング・講評会
みなさんからのリクエストがありましたら、Zoom などを使ったミーティングや講評会も行いたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
9/26	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
10/3	近現代美術 1 (印象派、フォービズム、キュビズム、未来派・ダダ、シュルレアリズム)	近代美術の萌芽とも言える時代の美術、印象派からシュルレアリスムまでを学びます。
10/10	近現代美術 2 (抽象表現主義からコンセプチュアル・アート・新表現主義)	第二次世界大戦から戦後、20 世紀の後半までの現代美術の様々な実験が行われた時代の美術を学びます。

10/17	近現代美術 3 (YBA・リレーショナル・アート・ソーシャリー・エンゲージド・アート)	ミレニアム前夜にイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント (Young British Artist とリレーショナルアート) についての理解を深めます。次に、2010 年代からソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという言葉が美術の世界で盛んに使われるようになりましたが、それらの動向について紹介します。
10/24	ワークショップ (1)	近現代美術 1-3 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
10/31	古代美術 (縄文・弥生・古墳時代、飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代)	先史時代の縄文・弥生・古墳時代、仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。
11/7	中世美術 (鎌倉・室町時代、桃山・江戸時代)	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代、支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。
11/14	ワークショップ (2)	古代美術、中世美術 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
11/21	近代美術のはじまり (明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画)	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
11/28	戦後美術 (アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房、もの派)	第二次世界大戦の終戦後の 1950 年代に実験工房、具体美術協会、続いてアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房が 1960 年代にはもの派など新しい芸術運動が始まります。
12/5	ワークショップ (3)	近代美術のはじまり、戦後美術 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション
12/12	1960-1980 年代 (もの派以降、インスタレーション・パフォーマンス)	1960 年代から 1970 年代にの美術に大きな影響力を持ったもの派以後について学びます。1980 年代には若いアーティストがインスタレーション・パフォーマンスによる制作を試みました。
12/19	1990-2020 年代 (1990 年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010 年以降)	1990 年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
1/16	ワークショップ (4)	1960-1980 年代、1990-2020 年代 単元の復習 プレゼンテーションとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（50 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 アベル・ガンズ
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック ハウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	フランク・キャブラ 濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック ミケランジェロ・アントニオーニ
13	鏡を見る	オーソン・ウェルズ 吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

平常点は単に出席したことだけでなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（50 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、都市や自然の映画表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につけ、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拓ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、指定した映画断片についてのコメントを宿題として毎回課す。

初回に、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	キング・ヴィダー フリッツ・ラング
3	迷宮都市	オーソン・ウェルズ ジャック・タチ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	溝口健二 ジャン・ヴィゴ
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 宮崎駿
10	水の宇宙	ジャン＝リュック・ゴダール アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン グル・ダッド
12	動物	ロバート・フラハティ アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館や DVD での映画観賞等。
本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間 A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。

毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4 つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

- 第 7 回 仏教の基本思想 (3) 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察
- 第 8 回 仏教の基本思想 (4) 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経
- 第 9 回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉
- 第 10 回 初期仏典講読 (1) 『ダンマパダ』
- 第 11 回 初期仏典講読 (2) 『スッタニパータ』
「慈しみ」他
- 第 12 回 初期仏典講読 (3) 『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他
- 第 13 回 初期仏典講読 (4) 『スッタニパータ』
真理についての争い
- 第 14 回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料等の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK
出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%) と授業内容確認小テストの成績 (30%) と平常点 (10%) により評価します。

学期末リポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか (恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことでしょう。先入見を持たずに、原典 (和訳) 資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解していただく。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 （本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6 心所）
第 6 回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苳経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苳経』・『稲苳経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道 大乘仏教・後期中観思想の人生観 2
第 13 回	大乘仏教（7）	仏陀・経典の権威について 筆記試験
第 14 回	まとめ・授業内試験	まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin 選書、2013 年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996 年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。
 授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。
 試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想を初めて学び、その思想（人生観等）に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になり、専門用語が若干多くなりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」から履修することを強く推奨します。
 また、第 1 回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第 1 回授業から参加にするようにしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. SarvAstivAdin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
3. Dharmakirti's and later MAdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

学生はインパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を受けることができます。また、高画質のDVD動画の投射により学習もできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題小レポートも予定し、パターン別に整理して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
第 3 回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
第 6 回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
第 7 回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
第 12 回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
第 13 回	III 行為の根源	自己創造的行為とは？
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介しします。山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末試験を基準 (70%) として、小レポート (15%) と出席回数 (15%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

P C 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from Japanese.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least four hours for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからは国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義の行為を再検討し、＜クリエイティブな行為＞を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。課題小レポートも予定し、パターン別に整理して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義の行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12 回	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。

第 13 回 自己創造としての変身 ネーミングによる変身が自己創造であることを説明する。

第 14 回 まとめ 行為の理論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。山口誠一著『ニーチェとヘーゲル』、法政大学出版局、2010 年など。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。拙著『ニーチェとヘーゲル』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

セメスター末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

P C 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from Japanese.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least four hours for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-finalexamination(70%), Mid-term reports (15%) and in-class contribution(15%).

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 現代思想——精神分析と現代哲学

森村 修

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

現代思想という文脈の中で、活発に思想的活動を続けている人物のひとりに東欧のスロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジック（1949-）がいる。彼は、哲学や精神分析（特に、ジャック・ラカンの構造主義的精神分析）を盾に、映画や芸術から現代政治に至るまで、幅広く論じる稀有な論客である。その彼が、英語で初めて書いた著作が『イデオロギーの崇高な対象』（1986）である。同書はマルクスからフロイト、ヘーゲルなどの思想を縦横無尽に論じ、極めて刺激的な著作である。そこで 2022 年春学期は、同書を基本的なテキストにして、ジジックの思想に触れてみたい。

【到達目標】

①哲学的なテキストを読むことができる。

③レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

(1) 基本的に「演習」形式で行う。

(2) 毎回、担当を決め、レジュメを作成してもらう。

◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。

(3) 授業の進め方

①特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。

②それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。

(4) フィードバックの方法

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 部 症候①	1. いかにしてマルクスは症候を 発明したか① ・マルクスとフロイト
第 3 回	第 1 部 症候②	1. いかにしてマルクスは症候を 発明したか② ・イデオロギー
第 4 回	第 1 部 症候③	2. 症候からサントムへ① ・症候の弁証法
第 5 回	第 1 部 症候④	2. 症候からサントムへ② ・現実的なものとしての症候
第 6 回	第 2 部 他者の欠如①	3. 汝何を欲するか ・同一性
第 7 回	第 2 部 他者の欠如②	3. 汝何を欲するか ・同一化、同一化を超えて

第 8 回	第 2 部	他者の欠如 ③	4. 汝は二度死ぬ
第 9 回	第 3 部	主体①	5. 〈現実界〉のどの主体か？ ・「〈メタ言語〉は存在しない」男 根のシニフィアン
第 10 回	第 3 部	主体②	5. 〈現実界〉のどの主体か？ ② ・対象としての「ワルシャワの レーニン」〈現実界〉としての拮抗 自由の強制された選択、反対物の 一致
第 11 回	第 3 部	主体③	・〈現実界〉からの応答として主体
第 12 回	第 3 部	主体③	6. 「実体としてだけでなく主体と しても」
第 13 回	第 3 部	主体④	7. 「実体としてだけでなく主体と しても」
第 14 回	第 4 部	主体⑤	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
- ・特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を3つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること（発表当日でよい）
- ・それ以外の参加者は、該当箇所について質問を1つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スラヴォイ・ジジエック『イデオロギーの崇高な対象』、河出文庫、2015 年

【参考書】

- ◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・個別報告発表（30 %）（回数および内容による評価）
- ・特定質問担当（30 %）（質問内容による評価）
- ・討論参加（40 %）（内容による評価）
- ※ 以上に基づいて、総合的に評価する。
- ※ なお、無断欠席は認めない。
- ※ 要注意
- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているのであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものと心得てもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

One of the most active thinkers in the context of contemporary thought is Slavoj Žižek (1949-). He studies philosophy and psychoanalysis (especially the structuralist psychoanalysis of Jacques Lacan) to discuss a wide range of topics, from film and art to contemporary politics.

The first book he wrote in English was "The Sublime Object of Ideology" (1986). This book is an extremely stimulating work that discusses the ideas of Marx, Freud, Hegel, and others in an inexhaustible manner. Therefore, in the spring semester of 2022, I would like to use this book as a basic text to touch upon Žižek's thought.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to read a philosophical text and discuss the philosophical topics.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 現代思想——精神分析と現代哲学

森村 修

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要】

教養ゼミⅡは、春学期教養ゼミⅠに引き続き、ジジェクの重要文献を読んでいく。

現代思想という文脈の中で、活発に思想的活動を続けている人物のひとりに東欧のスロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジェク (1949-) がいる。彼は、哲学や精神分析 (特に、ジャック・ラカンの構造主義的精神分析) を盾に、映画や芸術から現代政治に至るまで、幅広く論じる稀有な論客である。

本授業では、『否定的なもののもとへの滞留』(1993)を読む。同書はカント、ヘーゲルからイデオロギー批判を含み、さらにジジェクが得意とする映画などへの言及が増え、ますます読解することが難しいが、相変わらず、極めて刺激的な著作である。そこで 2022 年秋学期は、同書を基本的なテキストにして、ジジェクの思想やラカンの精神分析も触れてみたい。

【到達目標】

- ① 哲学的なテキストを読むことができる。
- ③ レジュメを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 基本的に「演習」形式で行う。
- (2) 毎回、担当者を決め、レジュメを作成してもらう。
- ◆レジュメには、①担当箇所の翻訳と解説、②用語説明、③考察、④問題点を記載する。
- (3) 授業の進め方
 - ① 特定質問者を決めて、担当者の発表に対して、質問を行う。
 - ② それ以外の授業参加者と教員を含めて質疑を行い、問題点について議論する。
- (4) フィードバックの方法
 - ・ 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ 授業の進め方についての説明 ・ 発表の順番等の決定
第 2 回	第 1 部 コギト①	第一章 「考える私あるいは彼あるいはそれ (<モノ>)」① ・ カントからヘーゲル
第 3 回	第 1 部 コギト②	第一章 「考える私あるいは彼あるいはそれ (<モノ>)」② ・ 消滅する媒介者
第 4 回	第 1 部 コギト③	第二章 コギトと性的差異① ・ 普遍の中のカント的ひび割れ
第 5 回	第 1 部 コギト④	第二章 コギトと性的差異② ・ 性化の定式

第 6 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理①	第三章 根源的〈悪〉と関連する事柄 ・ カントとベンサム
第 7 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理②	第三章 根源的〈悪〉と関連する事柄 ・ 無限判断
第 8 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理③	第四章 イデオロギーの理論としてのヘーゲルの「本質の論理」① ・ 不充足根拠率
第 9 回	第 2 部 ゆえに—— 弁証法的誤謬推理④	第四章 イデオロギーの理論としてのヘーゲルの「本質の論理」② ・ 即自から対自へ
第 10 回	第 3 部 われあり①	第五章 「おまえを傷つけたその槍だけが、その傷を癒すことができる」① ・ 現実的なものの応答
第 11 回	第 3 部 われあり②	第五章 「おまえを傷つけたその槍だけが、その傷を癒すことができる」② ・ ワーグナー的行為遂行性
第 12 回	第 3 部 われあり③	第六章 汝のネーションを汝自身として享楽せよ ・ 享楽の盗み
第 13 回	第 3 部 われあり④	第六章 汝のネーションを汝自身として享楽せよ ・ スピノザ主義、あるいは、後期資本主義のイデオロギー
第 14 回	ジジェクの思想とはな んだったのか?	ジジェク思想の発展

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・ 担当者は、テキストの該当箇所のレジュメを発表前日までに教員に提出すること。
- ・ 特定質問者は、テキストの該当箇所に関する質問を 3 つ以上考え、簡単な質問表を作ってくること (発表当日でよい)
- ・ それ以外の参加者は、該当箇所について質問を 1 つは考え、当日の議論に参加する準備をすること。
- ・ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

スラヴォイ・ジジェク『否定的なもののもとへの滞留』、ちくま学芸文庫、2006 年

【参考書】

- ◆ その他については、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 個別報告発表 (30 %) (回数および内容による評価)
- ・ 特定質問担当 (30 %) (質問内容による評価)
- ・ 討論参加 (40 %) (内容による評価)
- ※ 以上に基づいて、総合的に評価する。
- ※ なお、無断欠席は認めない。
- ※ 要注意
 - ・ リアルタイムオンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

最近の大学生の中には、基本的なテキスト読解が不十分な者が見受けられる。テキストを「読む」というのは、テキストを「読み解く」のであって「読み込む」のではないことは肝に銘じるべきである。「読み込む」ということは、自分の考えをテキストに投影することであり、それは単なる勝手な解釈に過ぎない。それでは、真にテキストを「読解する」ことにならない。あくまで「虚心坦懐」にテキストに向かい、「眼光紙背を徹する」態度でテキストに向かわなければ、哲学的なテキストを「読む」ことはできない。

また、担当者はレジュメを作成する上で、引用されているテキストはもちろん、それ以外にも用語・概念などについて、徹底的に下調べを行うべきである。担当者以外に対して、教員から授業中に質問することが多々あるので、担当者と同様に準備を怠らないでほしい。

演習とは **practice** (=実践) を意味しているものであり、テキストを「読む」という実践は五感を十分に活用することです。授業に参加する皆さんは、哲学を「実践する」態度で臨んでもらいたい。

【受講上の注意】

本授業は、哲学・倫理学、思想の分野に深くコミットしているために、自身の思考の鍛錬を要する。テキストを読むこと、それに基づいて自分の思考を実践すること、これらの作業は哲学研究にとって必須のものとして心掛けてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

One of the most active thinkers in the context of contemporary thought is Slavoj Žižek (1949-). He studies philosophy and psychoanalysis (especially the structuralist psychoanalysis of Jacques Lacan) to discuss a wide range of topics, from film and art to contemporary politics.

In this class, we will read "Tarrying with the Negative: Kant, Hegel, and the Critique of Ideology" (1993). The book contains the critique of Kant and Hegel to the critique of ideology and is increasingly difficult to read and understand. However, the book is still an extremely stimulating work. In the fall semester of 2022, I would like to use this book as a basic text and touch on Žižek's thought and Lacan's psychoanalysis.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to read a philosophical text and discuss the philosophical topics.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%.

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）

円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【その他の重要事項】

万一オンライン実施に変更となった場合、YouTube 等による録画配信や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的古い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けていただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
 佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
 天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
 円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
 と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得
 することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国
 語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれま
 すが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓
 読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【その他の重要事項】

万一オンライン実施に変更となった場合、YouTube 等による録画配
 信や学習支援システムにより授業を行う予定です。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language
 and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are
 expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each
 class meeting, students will be expected to spend four hours
 to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても
 過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴
 族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、
 日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・
 社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日
 本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現
 できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
 部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
 際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
 部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要で
 ある。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込
 む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授
 業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからい
 くつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペ
 ーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活
 かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、
 視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終
 授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏 殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の 成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の 寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大 寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統 制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興 寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理 由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点 と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末本文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教学会『仏教研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985 年）
 林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
 石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
 速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
 道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
 追塩千尋『国分寺の中世の展開』（吉川弘文館、1996 年）
 勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of social services by Buddhism in ancient Japan and the Tang Dynasty.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be able to understand the followings: How Buddhism of the Japanese ancient was related to social welfare, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination : 50 %, Short examination : 50 %.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の 4 人に 1 人が犠牲になる日本で最も過酷な被害を受け、1972 年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略が変化する一方で、日本政府の意図の元で米軍基地が維持され、沖縄は負担を強いられ続けています。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ禍でも可能な限り、教室を使用したリアルな授業の開催を目指します。授業では「Zoom」を併用し、市ヶ谷キャンパス以外の学生の履修や、欠席者の受講にも配慮します。毎回の授業後に、簡単な感想や質問などをまとめたアクションペーパーの提出を求め、その後の授業に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史 (1)	NHK の番組を参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史 (2)	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995 年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A Book」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50%）

期末レポート（50%）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点で沖縄の現状への理解から見える日本の政治や外交のあり方も提示したいと考えています。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、メディア業界に就職を希望する学生への支援活動にも取り組んできました。最近では、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）の実行委員や、出版社の「週刊金曜日」と連携してメディア業界に進む学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia is changing, the US military base is being maintained under the intention of the Japanese government, and Okinawa continues to be burdened. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

【Learning Objectives】

Students will:

- ・ Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.

- ・ Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.

- ・ Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.

- ・ Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係系 B 2017 年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア太平洋には多くの島嶼・島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」からの沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第 2 回	「琉球処分」一東アジア国際関係系の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第 3 回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第 4 回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第 5 回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第 6 回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。

第 7 回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第 8 回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題について議論します。
第 9 回	沖縄の課題（１）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第 10 回	現代沖縄の課題（２）：アジア・環太平洋の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第 11 回	現代沖縄の課題（３）：環太平洋の自然と環境	環太平洋の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第 12 回	現代沖縄の課題（４）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第 13 回	現代沖縄の課題（５）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第 14 回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009 年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010 年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013 年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016 年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005 年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門によって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、E メール：mizakiko@tsuda.ac.jp 宛にご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 50%, Short presentation for the research report: 20%, comments to fill in every class: 30%

HIS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 在日朝鮮人の歴史 A

神谷 丹路

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章: 在日朝鮮人世界の形成。1～3 (併合前から関東大震災まで)	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章: 在日朝鮮人社会の形成。4～6 (植民地支配と日本への定着化)	学生によるテキストの報告、映像
5	第 2 章: 協和会体制と戦争動員。1～3 (世界恐慌期の渡航・移民。協和会)	学生によるテキストの報告、映像
6	第 2 章: 協和会体制と戦争動員 4～5 (強制連行、強制労働)	学生によるテキストの報告、映像
7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学
8	第 3 章: 戦後在日朝鮮人社会の形成 1 (戦後在日朝鮮人の出発)	学生によるテキストの報告、映像

9	第 3 章: 戦後在日朝鮮人社会の形成 2, 3 (占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人)	学生によるテキストの報告、映像
10	第 3 章: 戦後在日朝鮮人社会の形成 4 (帰国運動)	学生によるテキストの報告、映像
11	第 4 章: 2 世たちの模索 1 (日韓会談と在日社会)	学生によるテキストの報告、映像
12	第 4 章: 2 世たちの模索 2～4 (在日社会の変容)	学生によるテキストの報告、映像
13	終章: グローバル化の中の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』(岩波新書) 860 円 + 税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かしてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Before/after activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 B

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住んでいて、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史 A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゼミ形式で進めます。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉	学生によるテキストの報告、映像文化
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像
8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像

12	在日コリアンとスポーツ選手	学生によるテキストの報告、映像
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

グアリーニ レティツィア

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

※定員制 (100 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4/13 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第 2 回	第一派フェミニズムからポストフェミニズムへと	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第 3 回	日本における #MeToo 運動	日本と韓国を比較しながら #MeToo 運動について考える。
第 4 回	5/11 クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの誕生や基本概念について講義する。
第 5 回	5/18 ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第 6 回	5/25 インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティについて考える。
第 7 回	6/1 カミングアウト	具体的な例を挙げながらカミングアウトについて考える。
第 8 回	6/8 ストーンウォールの暴動から考える	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第 9 回	6/15 クィアな空間	クィア映画祭やアートについて考える。
第 10 回	6/22 クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。

- 第 11 回 6/29 児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ 絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
- 第 12 回 7/6 『Queer Japan』 映画『Queer Japan』について考える。
- 第 13 回 7/13 メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象 文学や映画におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
- 第 14 回 7/20 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

森山至貴『LGBT を読みとくクィア・スタディーズ入門ー』(ちくま新書、2017 年)
トッド・マシュ『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』(原書房、2022 年)
岩渕功一(編)『多様性との対話ーダイバーシティ推進が見えなくするもの』(青弓社、2021 年)

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70 %、コメントペーパー 30 % で総合的に評価します。

学期末レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Have basic knowledge about queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 30%

Final essay: 70%

GDR300LA

クィア・スタディーズ B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

グアリーニ レティツィア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (100 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9/23 オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について復習する。
第 2 回	9/30 フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第 3 回	10/7 文学と性暴力	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第 4 回	10/14 文学とミソジニー	松田青子の作品を取り上げる。
第 5 回	10/21 表象分析実践	松田青子「女が死ぬ」を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート 1 を提出する。
第 6 回	10/28 文学と身体	文学作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 7 回	11/11 アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 8 回	11/18 男性性	ヘゲモニックな男性性について考える。
第 9 回	11/25 ゲイ解放運動	映画における LGBT 運動の表象について考える。
第 10 回	12/2 ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ!』を取り上げる。
第 11 回	12/9 表象分析実践	よしながふみ『きのう何食べた?』を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート (2) を提出する。

第 12 回 12/16 ヘテロノーマティヴィティと家族 『彼らが本気で編むときは、』を取り上げる。

第 13 回 12/23 カミングアウト 『カラコエの花』を観て、グループでディスカッションを行う。

第 14 回 1/20 まとめ まとめを行う。小レポート (3) を提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』(晃洋書房、2016 年)

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』(晃洋書房、2021 年)
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021.

【成績評価の方法と基準】

グループワークとディスカッション 10%

小レポート (1) : 松田青子「女が死ぬ」についての小レポート (800-1,200 文字程度) 25%

小レポート (2) : 『きのう何食べた?』(ドラマ版) の 8 話について、小レポート (800-1,200 文字程度) 25%

小レポート (3) 授業に取り上げられた具体的な作品を分析した小レポート (2,000 文字程度) 40%

小レポートについて授業内で詳しく説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, and comics, while reviewing what we learned in Queer Studies A, held during the spring semester.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、キリスト教という宗教およびその思想の成立を、歴史的背景から概観します。とりわけ、ユダヤ教からキリスト教が生成してくるそのプロセス、聖書において叙述されるキリスト教の主要な特徴、中世におけるキリスト教思想の展開について、検討します。その際キリスト教は、信仰されるべき真理というよりも、学問的な知の対象として考察されることになります。授業を通して、キリスト教思想の成立について基本的な学問的知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

(A) キリスト教思想の成立を、歴史的背景から理解できる。
(B) キリスト教思想の成立を、学問的な知の対象として考察できる。
(C) キリスト教思想について理解したこと・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	キリスト教思想史を学ぶとは	キリスト教思想史を学問的な知の対象として扱うとはどういうことかの考察
第 3 回	ユダヤ教の成立と特色	ユダヤ教の成立史の概観 一神教としての独自性
第 4 回	ユダヤ教の展開	ユダヤ教の展開の概観 ユダヤ教の律法主義
第 5 回	イエスの生涯	イエスの生涯と活動 その誕生と死、復活
第 6 回	イエスの思想	弟子たちへのイエスの教え 処刑と復活についての考察
第 7 回	使徒と原始キリスト教	イエスの死と使徒たち パウロによる教義の定式化
第 8 回	聖書の成立	文書としての「聖書」の成立史 聖書の構成とその意義
第 9 回	古代から中世へ (1)	教父たちによる教義の形成 三位一体論をめぐる論争

第 10 回	古代から中世へ (2)	アウグスティヌスの思想 カトリック思想体系の成立
第 11 回	中世キリスト教 (1)	教皇とカトリックの位階制度 正統と異端
第 12 回	中世キリスト教 (2)	修道院の展開 ドミニコ会とスコラ学
第 13 回	東方のキリスト教	正教の成立と特色 イコンをめぐる問題
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望めます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直ししておくことが望めます。

【テキスト (教科書)】

谷口静浩『諸宗教の歩み 事実と本質のあいだで』晃洋書房。

【参考書】

・『岩波キリスト教辞典』岩波書店
・小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社〔講談社学術文庫〕
・木村凌二『多神教と一神教』岩波書店〔岩波新書〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the history of Christian thought from the Judaism to the Middle Ages.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the history of Christian thought, (B) examine it academically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、キリスト教という宗教およびその思想の展開を、歴史的背景から概観します。とりわけ、中世から近代にかけて生じた宗教改革、近代の敬虔主義やキリスト教をめぐる神学・哲学の展開、近代から現代にかけての「世俗化」プロセスとキリスト教の関係について、検討します。その際キリスト教は、信仰されるべき真理というよりも、学問的な知の対象として考察されることになります。授業を通して、キリスト教思想の展開について基本的な学問的知識を獲得することが目指されます。

【到達目標】

(A) キリスト教思想の展開を、歴史的背景から理解できる。
(B) キリスト教思想の展開を、学問的な知の対象として考察できる。
(C) キリスト教思想について理解したこと・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	宗教改革の背景	教皇権威の弱体化 聖書翻訳と人文主義
第 3 回	宗教改革の展開	ルターからカルヴァンへ プロテスタンティズムの成立
第 4 回	啓蒙思想とキリスト教 (1)	キリスト教の相対化 自然宗教と啓示宗教
第 5 回	啓蒙思想とキリスト教 (2)	神の存在証明 理性的なキリスト教理解
第 6 回	キリスト教の敬虔主義 (1)	内面的体験の重視 シュペーナーの敬虔主義
第 7 回	キリスト教の敬虔主義 (2)	シュライエルマッハーの思想 直観と感情としての宗教
第 8 回	キリスト教の脱神話化 (1)	ヘーゲルとキリスト教の歴史化 自由主義神学の展開
第 9 回	キリスト教の脱神話化 (2)	フォイエルバッハの思想 キリスト教の人間学化

第 10 回	キリスト教という「不条理」	キルケゴールのキリスト教論 20 世紀の弁証法神学
第 11 回	キリスト教と「神の死」	ニーチェのキリスト教論 系譜学と「神の死」の洞察
第 12 回	「世俗化」とキリスト教	ヴェーバーの宗教論 「脱魔術化」されるキリスト教
第 13 回	現代におけるキリスト教	ポスト世俗化と多元主義 (諸) 宗教の対話の可能性
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、教科書や参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、教科書や参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

谷口静浩『諸宗教の歩み 事実と本質のあいだで』見洋書房。

【参考書】

・『岩波キリスト教辞典』岩波書店
・小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社〔講談社学術文庫〕
・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（大塚久雄訳）岩波書店〔岩波文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the history of Christian thought from the Middle Ages to the Modern World.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the history of Christian thought, (B) examine it academically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1～3 回目は、講義形式。第 14 回目は期末試験を行う。
- ・第 4～13 回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第 4 回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	日本語と外国語①	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語（ネオロジー）

第 8 回	日本語と外国語②	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第 9 回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
 G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
 R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
発表	30%
期末試験	40%

・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：y7u3zjb
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 11 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻繁にチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について (学生発表と質疑応答。以下 13 回まで)
第4回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト
第5回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテークング ・パラ言語

第 6 回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第 7 回	言語コミュニケーション②	・誘い方と断り方
第 8 回	言語コミュニケーション③	・自己紹介と自己開示
第 9 回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第 10 回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第 11 回	非言語コミュニケーション③	・空間と対人距離
第 12 回	非言語コミュニケーション④	・時間感覚
第 13 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第 14 回	期末試験	・第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の準備学習・復習時間は、1 時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のことばー文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参 15 %
リアクションペーパー 15 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・最新情報を Hoppii で確認すること。 また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：女性の視点からみる近現代日本文学

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった家族・ジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

グループに分かれて指定作品を分析し発表することで、自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。本学期的後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	清水紫琴の試み「こわれ指環」を中心に	女性の言文一致 グループワークと討議
対面授業	樋口一葉①「十三夜」	「空白」を読む／グループワークと討議
対面授業	樋口一葉②「わかれ道」	女性の「出世」とは／グループワークと討議
対面授業	田澤稲舟「しろばら」	明治期の性被害／グループワークと討議

対面授業	平塚らいてうを中心に	大正期における女性の課題／グループワークと討議
対面授業	田村俊子①「炮烙の刑」	新しい自我の覚醒／グループワークと討議
対面授業	田村俊子②「枸杞の実の誘惑」	少女の性を考える／グループワークと討議
対面授業	素木しず「三十三の死」	女性の「障がい」／グループワークと討議
対面授業	尾崎みどり「歩行」	「女性文学」のモダニズム／グループワークと討議
対面授業	まとめのグループ発表のための準備①グループディスカッション	作品を選んでグループワーク
対面授業	まとめのグループ発表のための準備②レジェ作成	レジェの作成
対面授業	まとめのグループ発表①	まとめの発表と討議
対面授業	まとめのグループ発表② 授業のまとめ	まとめの発表と討議／期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

樋口一葉の対象作品は全集等で読めるので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、その他の入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、青柿堂）、[新編] 日本女性文学全集 全 12 巻（矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が 50 %、期末レポートが 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて、必要に応じて資料を配布します。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 女性の視点からみた近現代日本文学

矢澤 美佐紀

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

グループに分かれて指定作品を分析し発表することで、自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にし、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめたレジメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するを努めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学期の振り返り
対面授業	佐多稲子『くれない』	戦争の時代における女性の「二重労働」／報告者による報告と討議
対面授業	津島佑子『寵児』	想像妊娠という装置／報告者による報告と討議
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	新たな家族像／報告者による報告と討議
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性概念の解体／報告者による報告と討議

対面授業	桐野夏生『錆びる心』	〈主婦〉の居場所／報告者による報告と討議
対面授業	角田光代『対岸の彼女』	女性の分断／報告者による報告と討議
対面授業	津村記久子『ボトスライムの舟』	ロスジェネの文学／報告者による報告と討議
対面授業	林真理子『下流の宴』	格差社会と文学／報告者による報告と討議
対面授業	小山田浩子『穴』	行為主体を問う／報告者による報告と討議
対面授業	今村夏子『こちらあみ子』	女性と狂気／報告者による報告と討議
対面授業	村田沙耶香『コンビニ人間』	新しいヒト／報告者による報告と討議
対面授業	宇佐見りん『推し、燃ゆ』	現代の病／報告者による報告と討議
対面授業	授業のまとめ	春秋学期を通じた振り返り／期末レポートの準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト (教科書)】

どれも入手しやすい作品なので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在—貧困・労働・格差— (2016・4、葺柿堂)、『[新編] 日本女性文学全集』全 12 巻 (矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版)、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』 (2006・10、東京堂出版)、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』 (2005・5、ミネルヴァ書房)、脇田晴子他編『女性文学史』 (1987・8、吉川弘文館) その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が 50 %、期末レポートが 50 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて、必要に応じて資料を配布します。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21 世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考えることなしに理解することはできない。イギリス帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考えること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

- ・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく（英語の資料を使用する場合もある）ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 1：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 3 回	20 世紀初頭までのイギリス帝国 2：南アフリカ戦争の時代まで	18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の展開を概観する。
第 4 回	イギリス帝国と統治 1：統治体制	イギリスがどのように帝国を統治していたのかを学ぶ。
第 5 回	イギリス帝国と統治 2：帝国を統治した人々	帝国を統治した人々とそこで使用された技法を学ぶ。
第 6 回	イギリス帝国と経済 1：商業と金融	帝国の経済基盤を商業と金融の観点から学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と経済 2：移民と労働	帝国を支えた移民とその労働形態を学ぶ。
第 8 回	イギリス帝国と文化 1：支配の文化、文化の支配	イギリス人の支配者意識と文化を通じた支配について学ぶ。
第 9 回	イギリス帝国と文化 2：批判の文化	帝国支配を批判する文化とその同時代における意義を学ぶ。
第 10 回	帝国からコモンウェルスへ 1：コモンウェルスの成立と二つの大戦	コモンウェルスが成立する過程を学ぶ。

第 11 回 帝国からコモンウェルスへ 2：帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化

第 12 回 脱植民地化の時代 1：脱植民地化の諸相

第 13 回 脱植民地化の時代 2：植民地責任

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年

秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %

・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about British imperial history.

2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British Empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

南アフリカ戦争 (1899 ~ 1902) は、帝国主義戦争の典型ともいわれ、イギリス本国、南アフリカ、イギリス帝国全体に大きな影響を及ぼした。この授業では、南アフリカ戦争に焦点をあて、それをさまざまな角度から分析することを通じて、その歴史的意義を考察したい。そうすることで、イギリスとその帝国の歴史の一断面を、重層的な文脈に位置づけて理解することを目指す。

【到達目標】

・南アフリカ戦争という歴史的事象を、さまざまな歴史の文脈に照らして考察する歴史的思考力を身につける。
・具体的なテーマを素材に歴史学を「実践」することで、その方法や問題、意義などを体験的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づく (英語の資料を使用する場合もある) ディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。なお、春学期に開講する「イギリスと帝国 A」を事前に履修することを強く勧める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	南アフリカ戦争の概要	戦争の背景と展開を概観する。
第 3 回	南アフリカ戦争の起源	開戦の原因とそれをめぐる論争について考える。
第 4 回	南アフリカ戦争の経験 1: 兵士と帝国臣民	兵士と帝国の人々が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 5 回	南アフリカ戦争の経験 2: 女性たち	女性たちが戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 6 回	南アフリカ戦争の経験 3: アフリカ人	アフリカ人が戦争をどう経験したのかを学ぶ。
第 7 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 1: 帝国意識	イギリス本国の戦争支持の世論を帝国意識の観点から考える。
第 8 回	南アフリカ戦争とイギリス本国 2: 親ボア派	イギリス本国の戦争批判の世論を親ボア派に着目して考える。
第 9 回	南アフリカ戦争の影響 1: イギリス	戦争がイギリス本国に与えた影響を学ぶ。
第 10 回	南アフリカ戦争の影響 2: 南アフリカ	戦争が南アフリカに与えた影響を学ぶ。
第 11 回	南アフリカ戦争の影響 3: 帝国	戦争がイギリス帝国と他の植民地に与えた影響を学ぶ。

第 12 回	世界史のなかの南アフリカ戦争	戦争を同時代の世界史の文脈に位置づけて考える。
第 13 回	南アフリカ戦争の歴史的意義	南アフリカ戦争の意義をさまざまな歴史的な文脈に即して考える。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト (教科書)】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』(全 5 巻) ミネルヴァ書房、2004 ~ 2009 年 (とくに第 1 巻と第 2 巻)
前川一郎『イギリス帝国と南アフリカ連邦の形成』ミネルヴァ書房、2006 年
歴史学研究会編『強者の論理—帝国主義の時代』(講座世界史 5) 東京大学出版会、1995 年
木畑洋一『支配の代償—英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (授業参加度、課題への取り組み): 50 %
・期末試験: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course examines the South African War (1899-1902) from multiple perspectives. In doing so, it considers significance and impact of this great colonial war the British empire had even fought. It also aims to provide students with opportunities to experience practice of historical research first hand, through which they can learn methodology, problems, and importance of 'doing history'

< Learning objectives >

1) Students are able to understand the significance and impact of the South African War in multiple historical contexts.
2) Students are able to acquire basic skills of historical analysis through practice of 'doing history'.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（15 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィリアム・マクニール著『疫病と世界史』を読んで、疫病と国家と宗教の関係を歴史的に考察することを目指す。
現代世界のパンデミックを過去のパンデミックと比較して考察することを目指す。

【到達目標】

文明世界の誕生から現在に至る、疫病と国家（政治）と宗教の間の相互関係の歴史を学ぶことによって、感染症が人類の歴史に与えた影響と今後の展望について考えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。

課題に対するフィードバックは演習時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読と議論：3つの疫病	ミシェル・フーコーの3つの疫病モデルについて扱う
#3	文献講読と議論：人類の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第1章
# 4	文献講読と議論：都市の誕生と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の前半
# 5	文献講読と議論：都市文明と疫病	『疫病と世界史（上）』第2章の後半
# 6	文献講読と議論：4つの文明世界と疫病	『疫病と世界史（上）』第3章の前半
# 7	文献講読と議論：疫病と宗教	『疫病と世界史（上）』第3章後半
#8	文献講読と議論：文明間の交流と疫病	『疫病と世界史（下）』第4章の前半
# 9	文献講読と議論：モンゴル帝国の平和と黒死病	『疫病と世界史（下）』第4章の後半
#10	文献講読と議論：黒死病後の世界	『疫病と世界史（下）』第5章の前半
#11	文献講読と議論：新大陸における疫病	『疫病と世界史（下）』第5章の後半
# 12	文献講読と議論：科学の発展と疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の前半
# 13	文献講読と議論：現代の疫病	『疫病と世界史（下）』第6章の後半
# 14	総括	ゼミのまとめと提出されたレポートに対する講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを4時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

ウィリアム・H・マクニール『疫病の世界史（上）（下）』（中公文庫、）

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度 100 %

Final grade will be calculated according to the quality of the students' performance in a class. 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゼミの内容・扱う文献に関しては、受講者の要望を最大限に尊重するつもりです。

シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline (in English)】

< Outline >

Theme: Relations between Plague, State and Religion

The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between plague, state and religion.

< Goal >

The goal of this course is to consider the impact of infectious diseases on human history and future prospects of them by studying relationships between pandemics, states and religion since the birth of a civilized world.

< Work to be done outside of class >

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and prepare the paper. Your required study time is four hours for each class meeting.

ECN300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スミス・マルクス・ケインズから現代経済を考える A

水野 和夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

20 世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領 (当時) が 2018 年 9 月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。バイデン大統領は民主主義国家対専制国家と位置付けている。

いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいつさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、アダム・スミス、カール・マルクス、J・M・ケインズの経済についての考え方を学ぶことで、現在の経済現象 (グローバリゼーションやゼロ金利) の理解を深めることができる。

スミスの「共感」、「分業」、「交換」、「労働価値説」についての考え方、マルクスの「利子搾取論」世界市場についての考え方、ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」、「財産としての貨幣愛」についての考え方などを学び、現在のグローバリゼーションの課題を考え、どのような社会にすることが望ましいのか、学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。春学期の最終回に各個人 (ないし各グループ) は 1 回ないし 2 回のプレゼンをする。

授業は原則対面で実施 (大学の方針に従う)。
リアクションペーパー提出の機会を設け、翌週に回答する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業 (演習) の概要と進め方の説明
第 2 回	基礎的概念の説明 I	経常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第 3 回	基礎概念の説明 II	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第 4 回	基礎概念の説明 III	「例外」(ゼロ金利) と「常態」(経済成長) — 「例外がいつさいを証明する」(『政治神学』シュミット)
第 5 回	アダム・スミス「共感」	『道徳感情論』における「共感」と児童労働が増加している現状

第 6 回	アダム・スミス「分業」と「交換」	『国富論』における富の創造—労働生産性の向上
第 7 回	アダム・スミス「労働価値説」	「労働価値説」(客観的価値説) と「効用価値説」(主観的価値説)
第 8 回	マルクス「利子搾取説」	利子搾取説 VS. 利子時差説 (バヴェルク)
第 9 回	マルクス『経済学批判』	資本主義のどこが問題なのか—労働の疎外
第 10 回	マルクス世界市場の見方	グローバリゼーションに対するマルクスの考え方
第 11 回	ケインズ—古典派 (新古典派も含む) 批判 (『一般理論』)	有効需要理論、市場の限界
第 12 回	ケインズ「わが孫たちの経済的可能性」	ケインズは 2030 年をどうみているのか—労働よりも自由時間を重視 (週 15 時間労働)、明日のことなど心配しない社会、ムーアの宗教の受容と道徳の拒否
第 13 回	ケインズ「若き日の信条」	
第 14 回	まとめ	プレゼン

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使ったレジュメ (授業支援システムに掲載) を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト (教科書)】

なし。毎回、レジュメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

『スミス・マルクス・ケインズ よみがえる危機の処方箋』ウルリケ・ヘルマン、鈴木直訳、みすず書房、2020 年

<https://www.ms2.co.jp/book/detail/08867/>

『新版 グローバリゼーション』(マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年)

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『政治神学』(C・シュミット、原著 1934、未来社、田中浩・原田武雄訳、1971)

<http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式のため、授業の冒頭で毎回学生の意見・質問を聞いて、進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

内閣府 (内閣府大臣官房審議官) および内閣官房 (内閣審議官) での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

【到達目標 (Learning Objectives)】 The goals of this course are to A, B, and C.

A. Learn Adam Smith's and Marx's Keynes's way of thinking

B. The Ideology of Globalization

C. What does zero interest rate mean?

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50%、presentation : 50 %

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スミス・マルクス・ケインズから現代経済を考える B

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

20 世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領 (当時) が 2018 年 9 月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。バイデン大統領は民主主義国家対専制国家と位置付けている。

いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいつさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、アダム・スミス、カール・マルクス、J・M・ケインズの経済についての考え方を学ぶことで、現在の経済現象 (グローバリゼーションやゼロ金利) の理解を深めることができる。

スミスの「共感」、「分業」、「交換」、「労働価値説」についての考え方、マルクスの「利子搾取論」世界市場についての考え方、ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」、「財産としての貨幣愛」についての考え方などを学び、現在のグローバリゼーションの課題を考え、どのような社会にすることが望ましいのか、学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。秋学期の最後に各個人 (ないし各グループ) は 1 回ないし 2 回のプレゼンをする。

授業は原則対面で実施 (大学の方針に従う)。
リアクションペーパー提出の機会を設け、翌週に回答する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	私的所有権について (企業)	内部留保金 484 兆円はいかにして増えてきたのか
第 2 回	私的所有権について (企業家計)	個人金融資産 2000 兆円はいかにしてふてきたのか、王朝仮説 VS. ライフサイクル仮説
第 3 回	ジョン・ロックの所有権について	正義と慈愛について
第 4 回	国家と海賊の違いについて	国家は暴力装置、資本の暴力性
第 5 回	資本について①	資本の二つの機能－唯物論者の資本と資金主義者の資本
第 6 回	資本について②	マルクスの G-W-G'
第 7 回	利子について	利子の源泉について－13 世紀、オーリーヴィの「資本論」

第 8 回	利子の歴史	13 世紀に利子が要因された背景、金利が最も低い国は何を意味しているのか
第 9 回	ゼロ金利は何を意味しているのか	人類史上初の日本とドイツのゼロ金利について
第 10 回	グローバリゼーションについて	グローバリゼーションの起源・印刷資本主義、テンブル教団
第 11 回	21 世紀のグローバリゼーション	実物投資空間と電子・金融空間
第 12 回	グローバリゼーションの功罪	GAFA と Oxfam レポート
第 13 回	春学期と秋学期通じて	グループ討議とプレゼンの準備のまとめ①
第 14 回	春学期と秋学期通じて	グループごとのプレゼンのまとめ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年

<https://str.toyokeyzai.net/books/9784492444658/>

『スミス・マルクス・ケインズ よみがえる危機の処方箋』ウルリケ・ヘルマン、鈴木直訳、みすず書房、2020 年

<https://www.ms2.co.jp/book/detail/08867/>

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『政治神学』（C・シュミット、原著 1934、未来社、田中浩・原田武雄訳、1971）

<http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式のため、授業の冒頭で毎回学生の意見・質問を聞いて、進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

【到達目標（Learning Objectives）】 The goals of this course are to A, B, and C.

A. Learn Adam Smith's and Marx's Keynes's way of thinking

B. The Ideology of Globalization

C. What does zero interest rate mean?

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】 Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50%, presentation: 50 %

SOC300LA

福祉社会論 A

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、社会福祉の基本的な考え方（必要原則と貢献原則、主観的な必要と客観的な必要、社会資源の供給と再配分など）を提供し、福祉に関連する概念として、専門主義や官僚制および福祉国家論などを取り上げる。後半は、障壁に焦点を当て、福祉ロボット、当事者運動、障害学生の学びについて考える。

【到達目標】

この授業で、学生には下記のことが期待される。

A. 社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想する。

B. 社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再配分	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	福祉と科学技術	介護ロボット、身体能力の補完、エンハンスメント
11	障害の概念と社会制度	障害に関わる制度と多様な見方
12	障害者運動と生命倫理	優生思想、自立生活運動
13	障害者と学び	障害学生を取り巻く状況と当事者の語り
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）、DIPEX-Japan「障害学生の語り」<https://www.dipex-j.org/shougai/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course will provide basic concepts of social welfare (e.g., principles of necessity and contribution, subjective and objective needs, supply and redistribution of social resources) and will cover concepts related to welfare such as professionalism, bureaucracy, and welfare state theory. The second half of the course will focus on disabilities, and will consider welfare robots, movements of people with disabilities, and the learning of students with disabilities.

【Learning Objectives】

In this class, students are expected to do the following

- A. Understand the concept of social welfare and conceptualize what a welfare-oriented society is.
- B. Consider what welfare by society means, paying attention to sources of welfare other than the government, specifically families and businesses, and develop the ability to view social welfare from a meta-perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は子ども家庭福祉の歴史と法制度を紹介し、母子保健、少子化、保育、教育などの子育てのインフラを説明する。その上で、障碍、子ども虐待、里子および養子、貧困などの社会問題について検討する。

【到達目標】

この科目の目標は下記の通りである。

- A. 子ども家庭福祉の成り立ちと実践の概要を説明できる。
- B. 子どもを取り巻く主な社会問題を把握し解決に向けた考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の回の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	子どもの福祉を考えるということ
2	子どもの福祉の歴史	前近代から現代、日本の子どもの福祉
3	子どもの権利・福祉・法制度	子どもの権利条約、児童福祉法
4	生命倫理と母子保健	母子保健の概要、優生保護法
5	少子化対策と子育て支援	子ども数の減少、子育て家庭への経済的支援、ネウボラ
6	現代における保育とは	保育・子育て支援ニーズ、社会福祉における保育
7	学齢期の子どもの教育と福祉	児童健全育成事業、外国籍の子どもと家族への対応
8	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族、ヤングケアラー
9	子ども虐待	子ども虐待に対応する制度、虐待予防
10	女性と福祉	ドメスティックバイオレンス、女性の貧困
11	社会的養護	社会的養護のかかわる施設、施設養護から家庭養護へ
12	子ども・家族の貧困	子育て家族の貧困とその背景、子どもの貧困対策法
13	ひとり親家族の福祉	ひとり親家庭とその現状、子どもにとっての養育費施策
14	子ども家庭福祉の実践	子ども家庭福祉の専門職、ボランティア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジюмеに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジюмеの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『子ども家庭福祉ー子ども・家族・社会をどうとらえるか』垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編（2020 年）2,200 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡紘一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー）50 %、期末レポート 50 %を成績の判断基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will introduce the history and legal system of child and family welfare, and explain the infrastructure of child rearing, including maternal and child health, declining birthrates, childcare, and education. Then, social issues such as disabilities, child abuse, foster and adopted children, and poverty will be discussed.

【Learning Objectives】

The goals of this course are as follows

A. To be able to give an overview of the origins and practice of child and family welfare.

B. To be able to understand the major social problems surrounding children and to consider solutions.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』第 4 巻～第 8 巻のなかから、受講生が学習したい区を選び、その歴史地理を学びます。各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 4 巻～8 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。

大学の方針に従って、対面授業（オンライン授業は最大 7 回まで）とします。資料の配布やパワーポイントは、学習支援システムおよび Google クラウドスループームを利用し、紙での配布はしません。授業の進め方は、ガイダンスで説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	地帯編を読む⑨	品川区・大田区
第 12 回	地帯編を読む⑩	目黒区・世田谷区
第 13 回	地帯編を読む⑪	渋谷区・杉並区・中野区
第 14 回	地帯編を読む⑫	荒川区・葛飾区

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジюмеとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、各自での現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年

『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 6 巻地帯編 3 品川区・大田区・目黒区・世田谷区』吉川弘文館、2019 年
 『東京の歴史第 7 巻地帯編 4 渋谷区・中野区・杉並区。板橋区・練馬区・豊島区・北区』吉川弘文館、2019 年
 『東京の歴史第 8 巻地帯編 5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』吉川弘文館、2020 年
 B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、発表・レポートの内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ハイフレックス（教室での対面授業と Zoom でのオンライン）授業は、受講者の発表内容の理解がすすまないため、各回ごとにどちらかに統一して行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布は学習支援システムおよび Google クラウドスルームを利用します。PC など閲覧用の機器を持参してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents. Students choose a ward from the textbook "History of Tokyo: Geography", Volumes 4 to 8, and study the historical geography of that ward.

【Learning Objectives】 Students will gain an understanding of the basic geographical events that make up Edo-Tokyo and learn the geography of Edo-Tokyo.

【Learning activities outside of classroom】 Your study times will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Presentation by Power Point 50%, in class contribution 50%

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸東京の各地域の歴史地理について、明治 30 年～40 年代に出版された日本初のグラフィック雑誌『風俗画報』別冊のなかから『新撰東京名所図会』の各区部の記述をもとに学びます。

【到達目標】

江戸東京の歴史地理について、明治期の資料をもとに深く理解し、現在に生きる歴史景観、失われてしまった景観とはなにか、過去から現在の地理を考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式です。履修希望者が多い場合はグループワークとします。資料を丹念に読みながら地図上で確認し、江戸東京を構成する地域の歴史地理（主に法政大学周辺から旧東京 15 区の中心部）を理解するため、議論しながらすすめます。大学の方針に従って、対面授業（オンライン授業は最大 7 回まで）とします。資料の配布やパワーポイントは、学習支援システムおよび Google クラウドスルームを利用し、紙での配布はしません。授業の進め方は、ガイダンスで説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、担当の分担
第 2 回	名所図会とは？	江戸名所図会から東京名所図会へ概要を講義
第 3 回	新撰東京名所図会を読む	麹町区・神田区
第 4 回	新撰東京名所図会を読む	牛込区・四谷区
第 5 回	新撰東京名所図会を読む	赤坂区・芝区
第 6 回	新撰東京名所図会を読む	小石川区・本郷区
第 7 回	新撰東京名所図会を読む	京橋区・日本橋区
第 8 回	新撰東京名所図会を読む	浅草区・下谷区
第 9 回	新撰東京名所図会を読む	上野公園・後楽園など
第 10 回	新撰東京名所図会を読む	隅田川・吉原など
第 11 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する
第 12 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する
第 13 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行って確認する

第 14 回 まとめ

授業内容の復習・まとめ・今後の課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当箇所を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめてください。現地調査後のレポートも作成してください。1 回の授業につき、準備・復習時間は合計 2 時間です。

【テキスト（教科書）】

『風俗画報別冊 新撰東京名所図会』

12 階の地理学科事務室に備えておきますので、必要な部分を適宜、コピーしてください。なお、デジタル版は法政大学図書館のデータベースからダウンロードもしくは印刷できます。

【参考書】

参考論文:

米家志乃布「近代の名所図会にみる江戸イメージ」『法政地理』第 52 号、2020 年

同「名所図会の挿絵・写真にみる「旧観」江戸と「新景」東京」『法政地理』第 54 号、2022 年

授業のなかで、他の名所図会などの史資料も適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、発表やレポートの内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ハイフレックス（教室での対面授業と Zoom でのオンライン）授業は、受講者の発表内容の理解がすすまないため、各回ごとにどちらかに統一して行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布は学習支援システムおよび Google クラウドスライドを利用します。PC など閲覧用の機器を持参してください。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will learn about the historical geography of each area of Edo-Tokyo based on the descriptions of each ward section in "Shin-Sen-Tokyo Meisho Zue" from the separate volume of "Fuzoku Gaho", Japan's first graphic magazine published in the 30s and 40s of Meiji era.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to gain a deeper understanding of the historical geography of Edo-Tokyo, based on materials from the Meiji period, and to consider the historical landscape that lives on today, what has been lost, and the geography from the past to the present.

【Learning activities outside of classroom】 Your study times will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Presentation by Power Point 50%, in class contribution 50%

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人々（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態	観光+人類学とは何か
第 3 回	観光と文化	（文献の発表と討論）観光の現場で創られる文化
第 4 回	観光と開発	（文献の発表と討論）観光と地域開発の結びつき
第 5 回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第 6 回	観光におけるホストとゲスト	（文献の発表と討論）ホスト／ゲスト論の再検討
第 7 回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第 8 回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第 9 回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か
第 10 回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム

第 11 回	宗教と観光②	(文献の発表と討論) 宗教／巡礼 ツーリズム
第 12 回	そのほかの観光①	(文献の発表と討論) 世界遺産、 ロングステイ
第 13 回	そのほかの観光②	(文献の発表と討論) テーマパーク、アニメ
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・ 図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・ 発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・ 本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006 年。
 山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
 山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
 鏡味治也ほか編『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011 年。
 橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2016 年。
 (以上のほか、授業時に適宜紹介します)

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点 (70 %) を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容 (30 %) も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけでなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・ 第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・ 履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の心理学として、研究・実践ともに世界で隆盛を極める「ポジティブ心理学 (positive psychology)」について、通年で専門的に履修するゼミとなります。同内容では、2022 年度が初開講となります。ポジティブ心理学は「ウェルビーイングの科学 (the science of well-being)」と定義され、ウェルビーイングについて、唯一、包括的かつ体系的な科学研究を行っている分野です。ポジティブ心理学を通して、ウェルビーイングや、「フラーリッシュ (flourish. 他分野の学術訳で「開花繁栄」、宇野の意識で「持続的幸福」)」という概念について、また、ゼミ生一人ひとりのウェルビーイングやフラーリッシュについて、理解を深めていきます。

【到達目標】

前期 (人間行動学 A) では、ポジティブ心理学に関する全般的な議論を、後期 (人間行動学 B) では、主要なポジティブ心理学研究について、前期で触れたテーマのなかから一、二を選定し、より深掘りする形で議論を進めていきます。本年度の後期では、「主観的幸福感 (subjective well-being)」について議論します。テキストはいずれも、信頼の置ける心理学研究に基づく内容のものを厳選します。これは、ポジティブ心理学に限らず、どの分野にも当てはまる現象のようですが、分野が人気を博するにつれて関与者が増える結果、正しい知識情報 (伝達者の恣意を排した、知識情報の源泉からのメッセージ) に触れることがますます難しくなっています。正しい知識情報は、真の (オーセンティックな) 学びへの探究心をさらに高めてくれます。ゼミ生には、「ポジティブ心理学のリテラシー」を高めてもらうことを通して、ポジティブ心理学のもつ醍醐味に触れてもらうことを、本ゼミの到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンラインゼミ (「オンデマンド型」と「リアルタイム配信型 (火曜 5 限)」の組み合わせ) となります。第 1 回ゼミはオンデマンド型によるガイダンスとなりますが、第 2 回ゼミ以降はコホート (少人数のグループ) を組成し、Zoom によるリアルタイム型でディスカッションを中心に進めていきます。どうしてもコホートワークが苦手という方は、相談の上、個人ワークを認めます (第 1 回ゼミ終了後にアンケートを実施し、皆さんの希望を拝聴します)。オンラインゼミのために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。その他の詳細については第 1 回ゼミのガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ概要、ゼミの進め方と方法 (終了後、アンケート実施)
第 2 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評

第 3 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 4 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 5 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 6 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 7 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 8 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 9 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 10 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 11 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 12 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 13 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 14 回	総括	第 2 回～第 13 回の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで扱うテーマについて、ゼミを離れても日常的に意識して過ごしていただくことをお勧めします。本ゼミの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『しあわせ仮説：古代の知恵と現代科学の知恵』（ジョナサン・ハイト著、藤澤隆史・藤澤玲子訳、新曜社、2011 年）
<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b455766.html>
 「心理学Ⅰ/Ⅱ」のテキストでもある『ポジティブ心理学入門』と並び、世界中のポジティブ心理学の授業で使用されている 2 大テキストの一つです。原題は、The Happiness Hypothesis: Finding Modern Truth in Ancient Wisdom.

【参考書】

『ポジティブ心理学の挑戦：“幸福”から“持続的幸福”へ』（マーティン・セリグマン著、宇野カオリ訳、ディスカヴァー・トゥエンティワン）
<https://d21.co.jp/book/detail/978-4-7993-1576-7>
 ポジティブ心理学の創始者による、ポジティブ心理学の「今」と未来の方向性を伝える一冊です。ただし、原文に、著者本人を取り巻く背景事情が分からないと理解しにくい箇所があるため、必要に応じて解説します。原題は、Flourish: A New Understanding of Happiness and Well-Being.

【成績評価の方法と基準】

レポートにおける理解度や、コホートワーク（あるいは個人ワーク）による発表やディスカッションでの参加姿勢や貢献度を総合的に評価します。成績評価の項目の詳細についてはガイダンスで説明します。なお、試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で画面共有を行いますので、スマホよりはパソコンでの受講が望ましいかもしれません。

【その他の重要事項】

Zoom によるリアルタイム型ゼミのときにも、カメラオンは任意とし、強要はしません（マイクオンは、ディスカッションの際に必要となります）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

Starting from the spring semester of 2022, this year-long course (a seminar with limited number of students or “zemi” in Japanese) will focus on positive psychology, an emerging field in psychological science that has been making remarkable contributions to conventional psychology, both in research and in practice. Positive psychology is defined as the science of well-being, and it is the only field so far that encompasses comprehensive and systematic scientific research on well-being. In addition to discussing the substantive content of positive psychology, attention will be given to enhancing students' well-being – a way to flourish.

【到達目標（Learning Objectives）】

In the spring semester, this course reviews a general discussion on positive psychology. In the fall semester, one or two major topics on positive psychology research will be selected and dealt in more depth. This year, the topic will be “subjective well-being.” All the selected textbooks are based on reliable psychological research. Since right knowledge and information will further enhance the pursuit of true (authentic) learning, the goal of this course is to have students experience the genuine pleasure of getting to know positive psychology with right knowledge and information.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Students will be evaluated based on their level of understanding reflected on reports, and their participation and contribution shown in presentations and discussions through cohort work (or individual work). More details will be explained in the first lecture of each semester. There will be no exam.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の心理学として、研究・実践ともに世界で隆盛を極める「ポジティブ心理学（positive psychology）」について、通年で専門的に履修するゼミとなります。同内容では、2022 年度が初開講となります。ポジティブ心理学は「ウェルビーイングの科学（the science of well-being）」と定義され、ウェルビーイングについて、唯一、包括的かつ体系的な科学研究を行っている分野です。ポジティブ心理学を通して、ウェルビーイングや、「フラーリッシュ（flourish. 他分野の学術訳で「開花繁栄」、宇野の意識で「持続的幸福」）」という概念について、また、ゼミ生一人ひとりのウェルビーイングやフラーリッシュについて、理解を深めていきます。

【到達目標】

前期（人間行動学 A）では、ポジティブ心理学に関する全般的な議論を、後期（人間行動学 B）では、主要なポジティブ心理学研究について、前期で触れたテーマのなかから一、二を選定し、より深掘りする形で議論を進めていきます。本年度の後期では、「主観的幸福感（subjective well-being）」について議論します。テキストはいずれも、信頼の置ける心理学研究に基づく内容のものを厳選します。これは、ポジティブ心理学に限らず、どの分野にも当てはまる現象のようですが、分野が人気を博するにつれて関与者が増える結果、正しい知識情報（伝達者の恣意を排した、知識情報の源泉からのメッセージ）に触れることがますます難しくなっています。正しい知識情報は、真の（オーセンティックな）学びへの探究心をさらに高めてくれます。ゼミ生には、「ポジティブ心理学のリテラシー」を高めてもらうことを通して、ポジティブ心理学のもつ醍醐味に触れてもらうことを、本ゼミの到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンラインゼミ（「オンデマンド型」と「リアルタイム配信型（火曜 5 限）」の組み合わせ）となります。第 1 回ゼミはオンデマンド型によるガイダンスとなりますが、第 2 回ゼミ以降はコホート（少人数のグループ）を組成し、Zoom によるリアルタイム型でディスカッションを中心に進めていきます。どうしてもコホートワークが苦手という方は、相談の上、個人ワークを認めます（第 1 回ゼミ終了後にアンケートを実施し、皆さんの希望を拝聴します）。オンラインゼミのために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。その他の詳細については第 1 回ゼミのガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスゼミ概要、ゼミの進め方と方法	（終了後、アンケート実施）
第 2 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評

第 3 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 4 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 5 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 6 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 7 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 8 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 9 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 10 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 11 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 12 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 13 回	発表・ディスカッション・講評	コホートワーク/個人ワークでのレポートを踏まえた発表・ディスカッション・講評
第 14 回	総括	第 2 回～第 13 回の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで扱うテーマについて、ゼミを離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本ゼミの準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

※詳細は、前期第 1 回ゼミのガイダンスのときに説明します。

『幸せを科学する：心理学からわかったこと』

（大石繁宏著、新曜社、2009 年）

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b455844.html>

『これからの幸福について：文化的幸福観のすすめ』

（内田由紀子著、新曜社、2020 年）

<https://www.shin-yo-sha.co.jp/book/b510165.html>

【参考書】

『ポジティブ心理学の挑戦：“幸福”から“持続的幸福”へ』

（マーティン・セリグマン著、宇野カオリ訳、ディスカヴァー・トゥエンティワン）

<https://d21.co.jp/book/detail/978-4-7993-1576-7>

ポジティブ心理学の創始者による、ポジティブ心理学の「今」と未来の方向性を伝える一冊です。ただし、原文に、著者本人を取り巻く背景事情が分からないと理解しにくい箇所がありますので、必要に応じて解説します。原題は、Flourish: A New Understanding of Happiness and Well-Being.

【成績評価の方法と基準】

レポートにおける理解度や、コホートワーク（あるいは個人ワーク）による発表やディスカッションでの参加姿勢や貢献度を総合的に評価します。成績評価の項目の詳細についてはガイダンスで説明します。なお、試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で画面共有を行うなどしますので、スマホよりはパソコンでの受講が望ましいかもしれません。

【その他の重要事項】

Zoom によるリアルタイム型ゼミのときにも、カメラオンは任意とし、強要はしません（マイクオンは、ディスカッションの際に必要となります）。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Starting from the spring semester of 2022, this year-long course (a seminar with limited number of students or “zemi” in Japanese) will focus on positive psychology, an emerging field in psychological science that has been making remarkable contributions to conventional psychology, both in research and in practice. Positive psychology is defined as the science of well-being, and it is the only field so far that encompasses comprehensive and systematic scientific research on well-being. In addition to discussing the substantive content of positive psychology, attention will be given to enhancing students' well-being – a way to flourish.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In the spring semester, this course reviews a general discussion on positive psychology. In the fall semester, one or two major topics on positive psychology research will be selected and dealt in more depth. This year, the topic will be “subjective well-being.” All the selected textbooks are based on reliable psychological research. Since right knowledge and information will further enhance the pursuit of true (authentic) learning, the goal of this course is to have students experience the genuine pleasure of getting to know positive psychology with right knowledge and information.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Students will be evaluated based on their level of understanding reflected on reports, and their participation and contribution shown in presentations and discussions through cohort work (or individual work). More details will be explained in the first lecture of each semester. There will be no exam.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

明田川 融、大里 知子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、沖縄の施政権が日本に返還されてから 50 年という節目の年である。沖縄の「日本復帰」の意味について考える場となるような講義も設定する予定である。

なお、本授業はオンラインで実施され複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフードバックは、学期末に学習支援システム等を使って行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当: 明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	沖縄を知るための基礎知識①（担当: 大里知子）	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②（担当: 大里知子）	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	考古学からみる、琉球・沖縄史①（担当: 石井龍太）	考古学からみる琉球史概説
5	考古学からみる、琉球・沖縄史②（担当: 石井龍太）	考古学からみる首里城
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定

11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	春学期のまとめ（担当：大里知子）	春学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（30 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、沖縄の施政権が日本に返還されてから 50 年という節目の年である。沖縄の「日本復帰」の意味について考える場となるような講義も設定する予定である。

なお、本授業はオンラインで実施され複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、学期末に学習支援システム等を使って行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	未定	未定
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	秋学期のまとめ（担当：大里知子）	秋学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（30 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：憲法と現代社会 A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、感染状況によっては、ZOOM を用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第 2 回	近代立憲主義の成立①	基本文献の輪読
第 3 回	近代立憲主義の成立②	報告と討論
第 4 回	日本憲法史①	基本文献の輪読
第 5 回	日本憲法史②	報告と討論
第 6 回	天皇制①	基本文献の輪読
第 7 回	天皇制②	報告と討論
第 8 回	平和主義①	基本文献の輪読
第 9 回	平和主義②	報告と討論
第 10 回	人権総論①	基本文献の輪読
第 11 回	人権総論②	報告と討論
第 12 回	思想・良心の自由①	基本文献の輪読
第 13 回	思想・良心の自由②	報告と討論
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50％）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50％）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reports (50%), and the quality of the students' experimental performance (50%).

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：憲法と現代社会 B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「教養ゼミⅠ：憲法入門A」に引き続き、憲法の基本書を丹念に輪読し、質疑や議論を積み重ねることによって、憲法をより深く学んでいく。憲法条文そのものは、簡素で無機質な文字の羅列に過ぎないが、その土台となっている歴史や思想を踏まえて個々の条文を読み解くことによって、憲法が目指すべき社会像や国家像が見えてくる。この授業では、ゼミ形式による対話の中で、憲法の含意を明らかにしていく。なお、ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、憲法に関する知識を学ぶだけではなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の基礎をなす思想やその歴史的背景を理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯を理解する。
- ③日本国憲法が保障する人権の内容について理解する。
- ④日本国憲法が定める国家機構について理解する。
- ⑤ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本国憲法に関する基本書を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、さらに掘り下げて考察すべきテーマを設定し、報告者を指定して報告を求める。授業は原則として対面での実施を予定しているが、受講者の意向および感染状況によっては、ZOOMを用いたオンライン授業に変更する場合もある。いずれにしても、ゼミナール形式で行うため、受講者による報告と議論によって授業を進めていく。報告に対しては授業の中でコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について説明する。
第2回	表現の自由①	基本文献の輪読
第3回	表現の自由②	報告と討論
第4回	職業選択の自由①	基本文献の輪読
第5回	職業選択の自由②	報告と討論
第6回	包括的基本権①	基本文献の輪読
第7回	包括的基本権②	報告と討論
第8回	平等原則①	基本文献の輪読
第9回	平等原則②	報告と討論
第10回	国会・内閣①	基本文献の輪読
第11回	国会・内閣②	報告と討論
第12回	裁判所①	基本文献の輪読
第13回	裁判所②	報告と討論
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男『憲法講話』（有斐閣、2020 年）

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50 %）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50 %）を合算して評価を行う。なお、学期末にレポートを課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな 1・2 年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about the Constitution of Japan by carefully reading the basic books of the Constitution and discussing it. The text of the Constitution itself is nothing more than a list of simple words, but by reading each text based on the history and ideas that underlie it, we can understand the social image that the Constitution would aim for. We will clarify the implications of the Constitution in a seminar-style dialogue.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reports (50%), and the quality of the students' experimental performance (50%).

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は 2 部構成とし、第 1 に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第 2 に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第 1 回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第 1 回目の授業は Zoom によるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	オゾンホール 1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。

3	オゾンホール 2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染 1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染 2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変 1（ヒートアイランド I）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変 2（ヒートアイランド II）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変 3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象 1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象 2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象 3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象 4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

・異常気象を知りつくす本、佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
・異常気象と人類の選択、江守正多著、角川 SSC 新書
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
・新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト・小レポート：40%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、今年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連するため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Quizzes・Short reports: 40%、in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態 (降水・積雪・氷河・海水)	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策 1 (国際的な取り組み)	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表された IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策 2 (日本の取り組み)	国際情勢にかんがみ、一昨年度、日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1 (産業分野)	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策 2 (災害対応)	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応 (地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論) とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象、吉野正敏著、成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－、日本気象学会 地球環境問題委員会編、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点: 20%
- ・小テスト: 40%
- ・試験: 40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation: 20%.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械的な仕組の上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組の概要を理解すること」を目標としている。（例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?）その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京- 日本+ フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学- 東京+ 大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか?）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算できる言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組について解説する。
第 04 回	計算できる言語 (2)	日常の文書編集で正規言語の選択構文を活用する。
第 05 回	計算できる言語 (3)	日常の文書編集で正規言語の繰返し構文を活用する。
第 06 回	計算機の理論 (1)	チューリング機械の仕組と計算の動作を解説する。
第 07 回	計算機の理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係を解説する。

第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数、2 の補数表現による整数の表現方法を説明する。
第 10 回	自然言語と AI(1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 11 回	自然言語と AI(2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 12 回	自然言語と AI(3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
第 13 回	自然言語と AI(4)	学習済みモデルを用いてシラバスの文章を分析する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整（例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

コンピュータと数理の活用

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機と数学 (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 03 回	計算機と数学 (2)	級数の公式を利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。
第 08 回	線形計画法 (2)	シンプレックス法の解法とプログラムを紹介する。
第 09 回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。

第 10 回 暗号の数理 (1)	基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。
第 11 回 暗号の数理 (2)	公開鍵暗号を使った暗号通信の実験を行う。
第 12 回 機械学習の事例 (1)	Python で機械学習プログラムを実行する手順を学ぶ。
第 13 回 機械学習の事例 (2)	重回帰分析に基づく機械学習の実験を行う。
第 14 回 まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography. To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味をもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験をを通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは 2 地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起こっている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。

- | | | |
|------|----------|-------------------------------------|
| [11] | ミューオン | ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。 |
| [12] | 核融合反応 | 太陽の中で起こっている核融合反応について |
| [13] | 相対性理論の応用 | GPS や核融合と相対論との関係について |
| [14] | まとめ | 特殊相対性理論のまとめ |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
 - （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのかを考える。

- [12] ブラックホール (1) ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール (2) 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。
- ・相対性理論は論理的に難しい。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。簡単な演習問題などを課すので納得するまで反芻する習慣をつけること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (60%) と小テスト等の平常点 (40%) から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena..

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展 (失敗) によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	原子は存在するのか？ (1)	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 3 回	原子は存在するのか？ (2)	気体の法則と分子運動論について
第 4 回	原子は存在するのか？ (3)	分子運動論から統計力学への発展について概観する

第 5 回	原子は構造を持つのか? (1)	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 6 回	原子は構造を持つのか? (2)	第 5 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 7 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第 8 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 9 回	原子構造 (1)	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第 10 回	原子構造 (2)	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第 11 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第 12 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 13 回	春学期のまとめ (1)	春学期授業のまとめを行う。また、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する。
第 14 回	春学期のまとめ (2)	第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を中心に、春学期の授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展 (失敗) によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金 (元素) を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は資料配布型オンデマンド授業として実施し、資料は学習支援システムにより配布する。配布資料では、高校で物理や化学を履修しなくても理解できるよう、平易に説明する。毎回、授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力 (核力) とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する

第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第 10 回	宇宙における元素合成 (1)	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり (ビッグバン) と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成 (2)	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成 (3)	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期授業のまとめを行う。第 13 回までに実施した小テストの講評や解説を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明と資料作りを心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム (これ以上分解できない粒子)” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には (最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて) どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比 (地球)	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第 4 回	元素の存在比 (宇宙)	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光 (電磁波) が放出される仕組みについて解説する。
第 8 回	原子の構造 (電子の発見)	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第 9 回	原子の構造 (原子核の発見)	原子核発見に関する研究について紹介する。

第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつ仕組みについて紹介する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊に伴うエネルギーについて紹介する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第 5 回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等、核融合反応の応用の可能性について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している、素粒子の種類や分類について紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第 12 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第 13 回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：自然史 ～ヒトと生物の関係性：ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～ 1

川上 裕司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館・動物園・水族館・植物園など博物館や生物学を学ぶ施設を利用して、見学実習をベースに、生命の星地球に暮らす様々な生物と私達ヒトの関係を見つめ直し、現代の生物としての人間の生活の在り方を考察する。1) 現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか。2) 人間は他の生物とどのように異なる存在であるのか。3) 地球の自然生態系と、それを知るための考え方や方法とは何か。4) 自然との関わり合いの中でヒトは生きる術として農業、林業、水産業、養蜂業、養蚕業、畜産業などの産業を営み、様々な文化をどのように発展させていったのか。5) その過程で、どうして争いごと（戦争）が生じたのか。6) 産業の発展に伴って生じた環境破壊（地球温暖化）にどのように取り組むべきか。といった問題を一緒に考えていく。本ゼミの主題は「生命とは何か」を生物学的な側面から考察することである。

【到達目標】

「生命とは何か」を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表形式でまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に見学実習の方法（記録法）や研究テーマの設定などを説明し、授業およびゼミ形式で行う。受講者の都合に合わせて、博物館等に足を運んでいただき、各自、記録用紙に記録する。見学実習後に、発表・討論、授業およびゼミ形式で行う。前期の終わりに中間発表を行い、後期の最後に最終発表を行うと共に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」としてまとめて、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	見学・調査の進め方とデータの収集法	博物館・動物園・水族館・植物園など博物館や生物学を学ぶ施設を利用しての見学実習の進め方について。研究テーマの選択について。見学・調査の進め方と資料（データ）の収集とまとめ方について。
生物学概論	生物学の基礎を学ぶ	見学実習を行う上で必要な生物学の基礎について講義する。
博物学概論	博物学の基礎を学ぶ（学名とは何か）	見学実習を行う上での博物学の基礎。生物の名前の付け方について講義する。
第一次産業概論	農林水産業と文化の発展	文化の礎となってきた第一次産業と農学など学問としての歴史について講義する。

各自見 学実習	研究テーマの選定	テーマを決めるための見学実習を各自で行う。
各自見 学実習	研究テーマの予備調査	各自で決めたテーマに沿った見学実習を行う。
各自見 学実習	研究テーマの本調査	各自で決めたテーマに沿った見学実習を行う。
グ ルー プ	研究テーマの選定理由 の中間発表	研究テーマを選定した理由についての各自の発表と今後の進め方について討論する。
グ ルー プ	研究テーマに基づく調 査の中間発表	最初の見学実習を終えての各自の発表と今後の進め方について討論する。
各自見 学実習	研究テーマに基づく追 加調査	中間発表に基づいてテーマを再確認し、再度、同じ施設での見学実習を行う。
各自見 学実習	研究テーマに基づく最 終調査	研究テーマを考える上で、重要と考える展示物に関する最終見学実習を行う。
論文の 作成法	データのまとめ方と論文の書き方	データのまとめ方と論文の書き方について、事例をまじえて講義する。
研究発表 の方法	PowerPoint を使った発表法	データのまとめ方とスライドの作成法について講義する。
総合討 論	PowerPoint を使って各自発表	各自の研究成果を「スライド」としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前に知らせるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、最終レポートを課すので、スライド作成と共に準備してください。インターネットからの **copy & paste** は、容易に判明することが可能ですので行わないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

実習についてのスライド作成とレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む（50%））を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

見学実習（研究テーマ）については、積極的に疑問点などについて自分で調べることが大切です。適切な参考書が知りたい場合には、担当講師に遠慮なく相談してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料（スライド）の作成を行って頂きますので、モバイルパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

- 1) 博物館等で見学実習のための交通費および入館料が必要です（大学指定の博物館は学生証の提示で無料となります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので、受講希望者は最初の授業に必ず出席して下さい。受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には再度選抜を行います。
- 3) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれ遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

【Outline (in English)】

We consider the dynamism of human culture as the relationship between humans, nature and living organism creates.

BIO300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 自然史 ～ヒトと生物の関係性: ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～ 2

川上 裕司

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

※定員制

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館・動物園・水族館・植物園など博物学や生物学を学ぶ施設を利用して、見学実習をベースに、生命の星地球に暮らす様々な生物と私達ヒトの関係を見つめ直し、現代の生物としての人間の生活の在り方を考察する。1) 現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか。2) 人間は他の生物とどのように異なる存在であるのか。3) 地球の自然生態系と、それを知るための考え方や方法とは何か。4) 自然との関わり合いの中でヒトは生きる術として農業、林業、水産業、養蜂業、養蚕業、畜産業などの産業を営み、様々な文化をどのように発展させていったのか。5) その過程で、どうして争いごと（戦争）が生じたのか。6) 産業の発展に伴って生じた環境破壊（地球温暖化）にどのように取り組むべきか。といった問題を一緒に考えていく。本ゼミの主題は「生命とは何か」を生物学的な側面から考察することである。

【到達目標】

「生命とは何か」を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表形式でまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

事前に見学実習の方法（記録法）や研究テーマの設定などを説明し、授業およびゼミ形式で行う。受講者の都合に合わせて、博物館等に足を運んでいただき、各自、記録用紙に記録する。見学実習後に、発表・討論、授業およびゼミ形式で行う。前期の終わりに中間発表を行い、後期の最後に最終発表を行うと共に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」としてまとめて、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	見学・調査の進め方とデータの収集法	前期のセミナー I を踏まえて、博物学や生物学を学ぶ施設（博物館・動物園・水族館・植物園など）を利用しての見学実習の進め方について。前期の研究テーマに基づき、更に深く見学・調査を行うための手法と最終報告書（論文）まとめ方について講義する。
生命科学概論	生命科学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での生命科学の基礎（生命誕生と DNA 学の発展）について講義する。
微生物概論	微生物学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での微生物学の基礎（食と感染症）について講義する。

生 命 哲 学 概 論	生命哲学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での生命哲学の基礎（生物学から見た宗教史）について講義する。
環 境 学 概 論	環境学の基礎を学ぶ	見学実習をより深く行う上での環境学の基礎（自然環境と室内環境）について講義する。
各 自 の 見 学 実 習	研究テーマの分析	各自の研究テーマを深く掘り下げる（分析）を目的とした見学実習を行う。
(1) 各 自 の 見 学 実 習	研究テーマの考察	各自の研究テーマを深く掘り下げる（考察）を目的とした見学実習を行う。
(2) 各 自 の 見 学 実 習	研究テーマの総括	各自の研究テーマを深く掘り下げる（総括）を目的とした見学実習を行う。
(3) グル ー プ ワーク (1)	研究テーマの報告	前期からの見学実習を終えての各自の報告と今後まとめ方について討論する。
グル ー プ ワーク (2)	研究テーマのまとめ方	各自の研究報告に基づいてまとめ方について討論する。
論 文 の 作 成 法	論文の作成法の検討	データのまとめと論文の作成について講義する。
論 文 の 作 成	データのまとめと論文作成	データのまとめ方と論文の書き方に基づいて論文を作成する。
最 終 発 表 会	PowerPoint を使った最終発表	各自 PowerPoint を使った最終発表を行う。
総 合 討 論	生命とは何かについて討論	自然史～ヒトと生物の関係性：ヒト・自然・生物と文化のダイナミズム～Ⅰ & Ⅱを終えての総合討論。

【Outline (in English)】

We consider the dynamism of human culture as the relationship between humans, nature and living organism creates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前に知らせるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。
また、最終レポートを課すので、スライド作成と共に準備してください。インターネットからの **copy & paste** は、容易に判明することが可能ですので行わないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

実習についてのスライド作成とレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む（50%））を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

見学実習（研究テーマ）については、積極的に疑問点などについて自分で調べることが大切です。適切な参考書が知りたい場合には、担当講師に遠慮なく相談してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料（スライド）の作成を行って頂きますので、モバイルパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

- 1) 博物館等で見学実習のための交通費および入館料が必要です（大学指定の博物館は学生証の提示で無料となります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので、受講希望者は最初の授業に必ず出席して下さい。受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には再度選抜を行います。
- 3) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメーjing

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物が好きで、自分でいろいろ調べたり実験してみたいという人に向いている授業です。実際の生き物の観察を通じて、生きる様子やしくみを調べます。その為に必要なのは、簡単な撮影道具と、皆さんの探究心です。予めこちらで用意したツールとしては、種子の発芽の観察、テントウムシの飛翔の観察、ブラナリアの再生の観察などがあります。でも、せっかく少人数で行う教養ゼミですから、こちらで決めたとおりにやるだけで無く、皆さんのご提案を実現するためのプロジェクトにも取り組めればと思っています。

これらの生き物の観察、その結果の分析を通じて、生きる仕組みを考察する過程で、皆さんがプロジェクト遂行能力を身につけることを目指しています。

【到達目標】

1. 基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
2. 規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、ブラナリアの再生 など）を通じた問題解決手順の修得
3. ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業となります。

全ての班が同じ規定課題を行います。規定課題は、ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔などを、材料調達のタイミングを見ながら約2週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーjingの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。
⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。

⑦	アリの歩行②	昆虫の6本足歩行について、画像解析します。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	ブラナリアの再生①	ブラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	ブラナリアの再生②	ブラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。予習・復習合計4時間以上行う事を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。

成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。

評価の基準は、授業内の活動の評価が 50 %、ノートの充実度が 50 % になります。

単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。

なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.

(Learning Objectives)

Finally students will find the most interesting phenomena as their own research subject.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

class activities 50%

note taking quartiles 50%

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメージング

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物が好きで、自分でいろいろ調べたり実験してみたいという人に向いている授業です。実際の生き物の観察を通じて、生きる様子やしくみを調べます。その為に必要なのは、簡単な撮影道具と、皆さんの探究心です。予めこちらで用意したツールとしては、種子の発芽の観察、テントウムシの飛翔の観察、プラナリアの再生の観察などがあります。でも、せっかく少人数で行う教養ゼミですから、こちらで決めたとおりにやるだけで無く、皆さんのご提案を実現するためのプロジェクトにも取り組めればと思っています。これらの生き物の観察、その結果の分析を通じて、生きる仕組みを考察する過程で、皆さんがプロジェクト遂行能力を身につけることを目指しています。

【到達目標】

生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。

1. 実験の計画立案とその企画書の作成能力
2. 計画実施能力
3. 完遂力
4. プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業となります。

班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。

全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表 についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。

最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。

⑧	中間発表	各班による中間発表と討論を行います。
⑨	実験日④	班ごとに、実験観察を行います。
⑩	実験日⑤	班ごとに、実験観察を行います。
⑪	データ整理・画像処理	主として画像関係のデータの解析を行います。
⑫	ポスター作成	研究結果をポスターとして発表します。
⑬	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。
⑭	班活動の総括・発表	最終プレゼンを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。予習・復習合計 4 時間以上行う事を基本とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。
成績は、授業内の活動 (50%) と、最後に提出するレポート (50 %) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planing to the final presentation.

(Learning Objectives)

Finally students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment. (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

class activities 50%

note taking quartiles 50%

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種元素固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	色のついた小さなガラス玉の作成
第 8 回	イオンの色	水を含むことで発色するイオンについて
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの沈殿反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	様々なイオンが溶けた水溶液からの、特定イオンの分離
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 80%) を評価し、学期末の実技試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

席に限りがあることや、感染症対策、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変化する仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点 (配分 80%) とし、学期末試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

席に限りがあることや、感染症対策、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせて、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。オーロラや虹など自然界に見られる現象を科学的に理解する。光の性質を利用した便利グッズの仕組みを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1（放電管・蛍光灯・電球）	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2（LED）	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。

第 10 回 生物発光

ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。

第 11 回 化学発光（実験）

屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。

第 12 回 屈折と散乱

干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。

第 13 回 干渉と偏光

春学期の振り返りを行います。

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30 %) と期末試験の結果 (70 %) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。人間の目が色を認識する仕組みは生物学的知識が、オーロラや虹の仕組みは物理の知識が必要ですし、物体の色は原子や分子の構造に関係します。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。秋学期の B の内容も春の初回に説明します。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

物質が吸収する光と物質の色の関係を理解する。
色のあるものとなないものの違いが何に起因するのか理解できる。
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚とともに解説します。
第 2 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 3 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 4 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 5 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 6 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 7 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 8 回	染料分子の構造	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 9 回	自然界の色	自然界で利用されているいろいろな色素の種類と構造を学びます。

第 10 回 光合成と呼吸

光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。

第 11 回 染色の方法と種類

伝統的な染色の技法を学びます。

第 12 回 染色実験

草木染を実際に行います。

第 13 回 身の回りの色

銀塩写真やボラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。

第 14 回 まとめ

授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30 %) と期末試験の結果 (70 %) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期のこの科目は「色」に関する話題を提供しますが、春学期の「光」と密接なつながりがあるので、A と B、両方の受講が望まれます。いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係でこの科目は定員 (24 名) を設けています。履修希望者が多かった場合は、春学期の履修者を優先し、春学期の段階で定員が満たされる場合もあります。秋学期の B について定員枠に余裕がある場合はシラバス、または Hoppii 等を通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

物質の科学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム (HOPPII) からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム (HOPPII) を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第 3 回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第 4 回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第 5 回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第 6 回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第 5 回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。

第 7 回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第 8 回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第 9 回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 10 回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第 11 回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第 12 回	香料 (ラベンダー) の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつばみから精油を取り出します。
第 13 回	香料 (ラベンダー) の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第 14 回	香料 (ラベンダー) の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学 B (秋学期開講) で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト (教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25 %)、各テーマ毎に提出するレポート (25 %)、および、平常点 (50 %) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「物質の科学 B」を引き続き受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生はオンラインで開講される第 1 回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム (HOPPII) の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

CHM300LA

物質の科学 B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	水の硬度	石けんの泡立ちに關係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第 3 回	定量分析 (1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第 4 回	定量分析 (2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第 5 回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第 6 回	けん化価 (1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習します。
第 7 回	けん化価の測定 (1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 1 回)

第 8 回 けん化価の測定 (2)

中和滴定によりけん化価を測定します。2 回にわたって測定し精度を確保します。(第 2 回)

第 9 回 けん化価 (2)

測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。

第 10 回 オリーブ油石けんの合成

測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。

第 11 回 やし油石けんの合成

測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。

第 12 回 透明石けんの合成

測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。

第 13 回 蒸留・比重

蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。

第 14 回 アルコール濃度の測定

蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席 (25%)、各テーマ毎に提出するレポート (25%)、および、平常点 (50%) によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「物質の科学 A」から連続して受講してください。受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学 A」の第 1 回目の授業に必ず出席してください。

また、本授業の直後、すなわち、水曜日 4 時限に「教養ゼミ I・II」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム (HOPPII) の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (<https://hoppii.hosei.ac.jp>). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%, assignments and lab reports: 25%, in class contribution: 50%.

PRI300LA

I T リテラシー

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

※定員制 (35 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報通信技術 (Information Communication Technology) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎 (ソフトウェア・ハードウェア) からネットワーク、プログラミング言語等、IT リテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数 (1)	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数 (2)	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数 (3)	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム (1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム (2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ (1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ (2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

基本的にパワーポイントの資料 (PDF) をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が 40%、平常点が 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制 (35 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第 14 回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が 40%、平常点が 60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、学生が現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かさない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習 (グループワーク) も行う予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度を高めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業 (受講生人数の把握のため)、②大学の方針として指示があった場合 (新型コロナウイルスの感染状況への対応)、③授業内の活動のために必要な場合 (グループワークにおける感染防止対策など) は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第 2 回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第 3 回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。

第 4 回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第 5 回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回	生物多様性はなぜ重要か?	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第 7 回	演習 1: 持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。
第 8 回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回	資源開発は持続可能か?	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回	演習 2: 多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト (教科書)】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1、2) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開 (到達目標 3) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で 60% 以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、学生からの質問への対応などに Hoppii の機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught mainly in lecture-style classes, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class so as to help the instructor to grasp students' progress as well as to address their concerns, as needed. Note that the classes will be given in the face-to-face format; however, classes will be held in the online format via Zoom in the following cases: 1) First class (in order to assess the number of students); 2) University decides to shift to the online format (to cope with, for example, a change in the COVID situation); and 3) In-class activities requires the online format (in order to, for example, minimize the COVID infection risk). Also note that students who are unable to attend classes in the face-to-face format due to such problems as health issues and issues associated with entering Japan may attend the classes in the online format with permission of the university/instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

Students will also need to be able to participate in online class, as needed.

【Outline (in English)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

ボルボックス生物論 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (28 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・初回授業のみ Zoom を用いたリアルタイム・オンライン形式で行います。
- ・第 2 回以降は、まず各回のテーマについて説明します。その後、各自実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・授業ノートは数回に分けて Hoppii の「課題」から提出していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を Hoppii の「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・質問は授業内のほか、Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、回答します。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは Hoppii を通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物を紹介します。
第 2 回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第 3 回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法・暗視野法で生物を観察します。
第 4 回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、周りの水流を観察します。
第 5 回	淡水産プランクトン①	池や川の水を顕微鏡で観察し、どのような生き物がいるか調べます。
第 6 回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察します。
第 7 回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第 8 回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。

第 9 回 プラナリア②

第 10 回 プラナリア③

第 11 回 走光性①

第 12 回 走光性②

第 13 回 走光性③

第 14 回 まとめ

切断したプラナリアの一週間後のようすを観察・記録します。プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。ボルボックスが光の方向を感知して向きを変える「走光性」を観察します。「鞭毛」の動きで作られる水流を観察し、光に対する変化を調べます。光を感知する「眼点」を観察し、走光性のしくみを考察します。第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70%（提出状況・理解度を評価します）
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、感染状況等を考慮して、オンデマンド方式と対面方式から毎回どちらかを選べる形にしました。他の授業との兼ね合いや体調に応じて選べるため安心して学習に取り組むことができたとの感想をいただきました。また、オンデマンドはじっくり集中して受講・観察でき、対面は実際に手を動かして実験を体験できるというそれぞれに良い点があったようです。本年度は全員対面方式が基本となるため、対面方式の良い点を大いに活用していきます。

また、授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、本年度も皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA

ボルボックス生物論 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (28 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返る不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・初回授業のみ Zoom を用いたリアルタイム・オンライン形式で行います。
- ・第 2 回以降は、まず各回のテーマについて説明します。その後、各自実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・授業ノートは数回に分けて Hoppii の「課題」から提出していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を Hoppii の「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・質問は授業内のほか、Hoppii の「テスト/アンケート」で受け付け、回答します。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは Hoppii を通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	進化における多細胞化	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物を紹介します。
第 2 回	生活環と形態形成①	ボルボックスの丸い形の形成過程「インバージョン」について学びます。
第 3 回	生活環と形態形成②	インバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第 4 回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみと進化について考えます。
第 5 回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第 6 回	有性生殖とその進化②	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖 (接合) の過程を観察します。
第 7 回	有性生殖とその進化③	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。

第 8 回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第 9 回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察します。
第 10 回	粘菌の行動③	粘菌が移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第 11 回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究方法について学びます。
第 12 回	突然変異体の研究への利用②	単細胞生物クラミドモナスの様々な突然変異体を観察し、特徴を調べます。
第 13 回	突然変異体の研究への利用③	突然変異体解析による研究の実例を示します。
第 14 回	まとめ	第 13 回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70% (提出状況・理解度等を評価します)
- ・試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、感染状況等を考慮して、オンデマンド方式と対面方式から毎回どちらかを選べる形にしました。他の授業との兼ね合いや体調に応じて選べるため安心して学習に取り組むことができたとの感想をいただきました。また、オンデマンドはじっくり集中して受講・観察でき、対面は実際に手を動かして実験を体験できるというそれぞれに良い点があったようです。本年度は全員対面方式が基本となるため、対面方式の良い点を大いに活用していきます。

また、授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、本年度も皆さんが楽しんで取り組める授業にしています。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかかわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システム（HOPPII）に課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第 2 回	第一章_異なる世界観のはざままで	「異なる世界観のはざままで」を学習する。
第 3 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第 4 回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる (2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第 5 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第 6 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。
第 7 回	第三章_エネルギーと文明の興亡 (3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第 8 回	第四章_化石燃料時代 (1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。
第 9 回	第四章_化石燃料時代 (2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第 10 回	第五章_イスラム教という波乱の要素 (1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。

- 第 11 回 第五章_イスラム教という波乱の要素 (2) 「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
- 第 12 回 第五章_イスラム教という波乱の要素 (3) 「民主主義はいずこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
- 第 13 回 第六章_世界の破綻 (1) 「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
- 第 14 回 まとめ 本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名：水素エコノミー ― エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度 (50%)、ディスカッションへの参加 (50%) を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選をおこないますので、オンラインで行われる第 1 回授業に必ず参加してください。

本授業は、第 1 回授業のみオンライン形式（Zoom を使用する双方向型）により行われ、第 2 回授業からは対面形式により行われます。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思ひます。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム（HOPPII）を通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

CHM300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかかわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システム (HOPPII) に課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池— ミニ発電所」を学習する。
第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ (HEW)」を学習する。
第 9 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (4)	「車を発電所に」を学習する。
第 10 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (1)	「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」～「共有財産としての水素」を学習する。
第 11 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (2)	「エネルギーの民主化」～「理論から実践へ」を学習する。
第 12 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (3)	「貧しい人びとにパワーを」～「安心」を見直す」を学習する。
第 13 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (4)	「地政学に基づく政治から生物圏に基づく政治へ」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト (教科書)】

下記書籍を教科書として使用する予定です。

書籍名: 水素エコノミー — エネルギー・ウェブの時代

著者名: ジュレミー・リフキン

訳者名: 柴田裕之

出版社: NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度 (50%)、ディスカッションへの参加 (50%) を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」(持続可能社会のための化学)と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」(持続可能社会のための化学)を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員 (24 名) を超える場合は抽選をおこないますので、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」(持続可能社会のための化学)の第 1 回授業 (オンライン開講) に必ず参加してください。

本授業は、第 1 回授業のみオンライン形式 (Zoom を使用する双方向型) により行われ、第 2 回授業からは対面形式により行われます。

本授業は、ゼミ形式での授業であり、受講生の皆様のご希望も取り入れながら開講していきたいと思っています。取り上げる内容については第 1 回の授業にて確定しますので、それまで教科書は購入しないでください。

本授業に関する質問等は、学習支援システム (HOPPII) を通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、HOPPII によって指示いたします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム (HOPPII) の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate

8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト (教科書)】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP) Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル: Issues in Modern Japanese Society

LASSEGARD JAMES

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開: ○ グローバル: ○ 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan (II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion. Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm and Final Papers: 50%
Presentation: 20%
Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc). Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course only for fall semester if they wish. International students (ESOP) are welcome to enroll in this course. Students wishing to audit the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に応じた柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 発音とアクセント	発音の仕方 綴りの基本 ドイツ語の主語について du,ihr,Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の冠詞について	所有冠詞
第 6 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配
第 8 回	Lektion4 ドイツ語の es について	非人称の es を用いた表現

第 9 回	Lektion5	動詞の 3 基本形 過去形について
第 10 回	Lektion5	人称による過去形の動詞の形 ドイツ語の過去人称変化について
第 11 回	Lektion6	現在完了形と接続詞 ドイツ語の現在完了形について
第 12 回	Lektion 6	zu 不定詞の用法 ドイツ語の zu 不定詞について
第 13 回	春学期ドイツ語学習の振り返りと総復習	Plus 文法と文法の確認
第 14 回	春学期期末試験、解説	春学期期末試験、解説とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくなりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について

成績配分は期末試験 50 %、平常点（確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

Goal: By the end of the course, students should be able to :

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Work to be done outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に沿った柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化と構文について
第 2 回	Lektion 7	未来形の用法と文
第 3 回	Lektion 8	ドイツ語の未来形について
第 4 回	Lektion 8	分離・非分離動詞
第 5 回	Lektion 8	ドイツ語の分離動詞について
第 6 回	Lektion 9	受動文の用法と形式
第 7 回	Lektion 9	ドイツ語の受動文について
第 8 回	Lektion 9	命令形とその用法
第 9 回	Lektion 9	ドイツ語の命令形について
第 10 回	Lektion 9	不規則変化動詞の用法
第 11 回	Lektion 9	ドイツ語の不規則変化動詞について
第 12 回	Lektion10	接続法第 2 式の用法と形式
第 13 回	Lektion10	ドイツ語の接続法について

第 8 回	Lektion10	婉曲話法と接続法第 2 式の用法 ドイツ語の婉曲話法について
第 9 回	Lektion11	再帰代名詞の人称変化 ドイツ語の再帰代名詞について
第 10 回	Lektion11	比較級・最上級の用法と形態 ドイツ語の比較級・最上級について
第 11 回	Lektion12	定関係代名詞 ドイツ語の関係代名詞について
第 12 回	Lektion12	関係副詞と不定関係代名詞 ドイツ語の関係副詞について
第 13 回	Plus 文法と振り返り	Plus 文法と 別冊練習問題を使つての文法事項の確認
第 14 回	期末試験、まとめと解説	期末試験、文法事項を中心としたまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行く章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。

期末試験 50 %

平常点（訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加）50 %

出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確かなものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

Goal: By the end of the course, students should be able to :

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Work to be done outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 2017 年度以降入学者 A

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 2017 年度以降入学者 B

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

PHL300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「批判理論」の成立の過程を、ドイツ語圏の哲学・思想の文脈から概観します。「批判理論」（あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」）と呼ばれる思想潮流は、20 世紀、ドイツ語圏出身のユダヤ系の思想家たちによって構想されました。授業においては、M・ホルクハイマー、Th・W・アドルノといった哲学者たちの言説を中心に、「批判理論」という思考様式がいかに定式化されたのかを理解することが目指されます。

【到達目標】

(A) 批判理論の成立の過程を、ドイツ語圏の哲学・思想の文脈から理解できる。

(B) 批判理論の成立に関わる哲学者たちの思想内容を考察できる。

(C) 批判理論の成立について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	「批判理論」について	ドイツ語圏哲学・思想の文脈から みる「批判理論」
第 3 回	批判理論の背景 (1)	ドイツ観念論とその挫折 哲学の学問化・専門化
第 4 回	批判理論の背景 (2)	マルクス主義とフロイト思想 ドイツ語圏におけるユダヤ思想
第 5 回	批判理論の生成 (1)	時代の「危機」意識 社会研究所と『社会研究誌』
第 6 回	批判理論の生成 (2)	亡命と破局の経験 同時代思想との対決
第 7 回	批判理論の定式化 (1)	ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」(1937 年)
第 8 回	批判理論の定式化 (2)	アドルノ『否定弁証法』(1966 年)と「非同一的なもの」の思考
第 9 回	批判理論の実践 (1)	『啓蒙の弁証法』(1947 年)における啓蒙の自己省察

第 10 回	批判理論の実践 (2)	『本来性の隠語』(1963 年)におけるハイデッガーとの対決
第 11 回	批判理論の影響 (1)	亡命からの帰国 戦後思想におけるプレゼンス
第 12 回	批判理論の影響 (2)	68 年運動における「批判理論」 ハーバーマースによる批判的継承
第 13 回	批判理論の展開	「批判理論」の批判 未完のプロジェクトとしての近代
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・細見和之『フランクフルト学派 ホルクハイマー、アドルノから 21 世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
・『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学 [20 世紀 I]』中央公論新社
・『社会思想史事典』丸善出版
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of Critical Theory in the context of German philosophy.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of Critical Theory, (B) examine it philosophically, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、社会哲学上の幾つかのテーマに沿って、20 世紀ドイツ語圏の「批判理論」の議論を紹介・考察します。現実の矛盾と対決する「批判理論」(あるいは「フランクフルト学派」)の哲学者たちは、近現代の社会における幾つかの諸問題について、傾聴に値する議論を展開しています。授業においては、近代化と啓蒙、宗教と道徳、芸術と文化、国家と政治といった諸テーマについて、「批判理論」の議論を参照しながら、現代社会の問題を視野に入れつつ考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 批判理論における社会哲学上の議論を理解できる。
- (B) 扱われた議論について理解したことを、自らの言葉で叙述できる。
- (C) 扱われた議論を、自分が生きる現実の社会と関連させて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学年末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	「批判理論」について確認	ドイツ語圏における「批判理論」とその社会哲学上の議論について
第 3 回	近代化と啓蒙 (1)	カントにおける「未成年状態からの脱出」としての啓蒙
第 4 回	近代化と啓蒙 (2)	野蛮に陥る啓蒙 近代化の両義性
第 5 回	近代化と啓蒙 (3)	「未完のプロジェクト」としての近代
第 6 回	宗教と道徳 (1)	近代における信と知 社会の世俗化
第 7 回	宗教と道徳 (2)	生の意味の喪失 宗教の脱魔術化と再魔術化
第 8 回	宗教と道徳 (3)	ポスト世俗の時代の宗教と道徳 宗教的言語の翻訳 (不) 可能性
第 9 回	芸術と文化 (1)	近代における芸術の自律化 「芸術のための芸術」

第 10 回	芸術と文化 (2)	芸術と「文化産業」 政治の美学化と美学の政治化
第 11 回	芸術と文化 (3)	「アウシュヴィッツ以後」の芸術 の可能性の模索
第 12 回	国家と政治 (1)	近代的「国家」と民族主義 権威主義と伝統
第 13 回	国家と政治 (2)	ナショナリズムの同一性を越えた 政治共同体の可能性の模索
第 14 回	まとめ、課題もしくは 試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の 実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』（徳永恂訳）、岩波書店
〔岩波文庫〕
・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』（三島憲一訳）、岩波書店
〔岩波現代文庫〕
・『社会思想史事典』丸善出版
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the development of Critical Theory regarding the topics of social philosophy.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the social philosophy of Critical Theory, (B) explain it properly, and (C) examine it in the contemporary context.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA

カルチュラル・スタディーズで見 るドイツ語圏 A

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ディズニーとドイツ——〈危険な関係〉？】

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作として作られた映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか？ この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか？

こうした問いを考えるために、春学期の授業では、ドイツ語圏の児童文学とディズニー作品との関係をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストの内容と文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。
文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。
ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします（講義形式）。
また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います（演習形式）。
文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？ 「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など）
第 2 回	『グリム童話集』の歴史	グリム兄弟による成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史
第 3 回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する
第 4 回	『白雪姫』と『白雪姫』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈
第 5 回	『白雪姫』と『白雪姫』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 6 回	『灰かぶり姫』と『シンデレラ』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈

第 7 回	『灰かぶり姫』と『シンデレラ』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 8 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(1)	テキスト読解／映画の成立過程とその文化的・社会的文脈
第 9 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 10 回	『バンビ』——ゲルマンの森から聖林(ハリウッド)へ(1)	原作小説(ザルテン作)と映画の成立過程——その文化的・社会的文脈
第 11 回	『バンビ』——ゲルマンの森から聖林(ハリウッド)へ(2)	テキストと映画の比較／変化の要因と効果の分析
第 12 回	ドイツにおけるディズニー	ディズニーがヴァイマル共和国に熱狂を巻き起こす
第 13 回	ディズニー vs ドイツ?	第二次世界大戦中のディズニーとドイツ
第 14 回	ディズニーとドイツ(まとめにかえて)	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語(場合によっては英語)で配布するので、事前に目を通しておいってください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります(詳細については授業で説明します)。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト(教科書)】

必要なテキスト等は授業前後にそのつと配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど): 60 %
学期末レポート: 40 % (提出しない場合は単位の認定ができません)
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります(ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください)。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を可能な限り設け、学生のみさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。
春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00~18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

Germany and Disney - 'les liaisons dangereuses'?

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on German children's literature and its film adaptation by Disney. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA

カルチュラル・スタディーズで見 2017 年度以降入学者
るドイツ語圏 B

柳橋 大輔

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

【映画になったハイジたち——児童文学とその映画化から見えてくるドイツ語圏の文化】

この授業では、ドイツ語圏の児童文学作品を、それが原作となった映画と比較・対照しながら読んでいきたいと思います。〈テキスト〉によって作られた文学作品が、〈映像〉というまったく異なるメディアで構成された映画に〈翻訳〉されることは、そもそも可能なのでしょうか? この〈越境〉によって、何が失われ、何が新たに付け加わっているのでしょうか?

こうした問いを考えるために、秋学期の授業では、ドイツ語圏の児童文学の名作といわれる小説と、これを原作として製作された映画をあつかいます。文学とその映画化を読み／観ながら、ドイツ語圏の文化や歴史について学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストの内容と文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディア的差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的・メディア的越境についてお話しします(講義形式)。

また、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみさんにグループで議論してもらい、その結果を発表してもらう時間も設けたいと思います(演習形式)。

文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます(フィードバック)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返りと秋学期の予定
第 2 回	ハイジは誰のもの?	シュペリ『ハイジ』: 成立当時の
	(1)	文化的文脈解説／テキスト読解
第 3 回	ハイジは誰のもの?	ハリウッドとスイスでの映画化:
	(2)	原作との差異とその要因・効果
第 4 回	ハイジは誰のもの?	日本に渡ったハイジ: アニメ版の
	(3)	原作との差異とその要因・効果
第 5 回	ケストナー I: 『点ちゃん』とアントン	エーリヒ・ケストナー: 激動の時
	あるいは格差社会と子供	代を生きた作家
	(1)	

- 第 6 回 ケストナー I：『点子ちゃん』と『アンツェン』、原作成立過程の解説／テキスト読解と映画との比較
あるいは格差社会と子供 (2)
- 第 7 回 ケストナー II：『ふたりのロッテ』、ふたつの映画化 (1) 成立過程と文化的・社会的文脈の解説／テキスト読解
- 第 8 回 ケストナー II：『ふたりのロッテ』、ふたつの映画化 (2) ドイツとアメリカでの映画化作品：原作小説との差異・その要因と効果
- 第 9 回 エンデ I：『はてしない物語』と『ネバーエండిングストーリー』のあいだ (1) ミヒャエル・エンデとドイツ語圏の文化・社会／原作小説の成立過程解説
- 第 10 回 エンデ I：『はてしない物語』と『ネバーエండిングストーリー』のあいだ (2) テキスト読解と映画との比較：その要因と効果
- 第 11 回 エンデ II：『モモ』 ― 原作の成立過程とその社会的・文脈小説・映画・時間 化的文脈／テキスト読解 (1)
- 第 12 回 エンデ II：『モモ』 ― 原作抜粋と該当する映画シーンの小説・映画・時間 比較：その差異と要因・効果 (2)
- 第 13 回 魔法を映像化する？ プロイスラーの原作小説テキスト映画『小さい魔女とワルブルグスの夜』とその原作 読解と映画との比較
- 第 14 回 講義内容のまとめ 児童文学とその映画化から見えてくるドイツ語圏の文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいください。授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）： 60 %
学期末レポート： 40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
――なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を可能な限り設け、学生のみさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。
春学期・秋学期をととした履修を推奨します。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

"Heidi and Her Friends in the Movie: German Children's Literature Read Along with the Film Adaptations"

In this class, we will read literary works from German-speaking countries, comparing and contrasting them with films based on them. In this semester, we will focus on masterpieces of German children's literature and films based on these novels. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA

比較文化 A

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照: 【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
①	予備考察 (1)	「人間とは食べるところのものである」とは? 食文化と人間 団体主義社会と個人主義社会
②	予備考察 (2)	「ステレオタイプ」、「偏見」とは? 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、 近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化 (1)	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化 (2)	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化 (1)	<i>Foodfilm</i> とは何か
⑪	文学と映画における食文化 (2)	伊丹十三『タンポポ』などについて

- ⑫ 文学と映画における食文化 (3) 小説『バベットの晩餐会』について
- ⑬ 文学と映画における食文化 (4) 映画『バベットの晩餐会』について
- ⑭ 総復習 課題に対する解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト (初期) 設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 (100 %) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。
手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

(Learning Objectives)

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (100%).

ARSK300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリック的意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++
リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまなアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について
⑩	北欧神話と動物（1）	課題、ディスカッション
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	課題に対するフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

— (Learning Objectives)

- ・ To deepen understanding of different cultures and own culture.
- ・ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- ・ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

— (Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

— (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (100%).

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。 取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。 取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。 取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。 取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。 取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。 取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4 ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。 取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第 10 回	音楽編 5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ	19 世紀末から 20 世紀初めの新しい音楽の世界。 取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク
第 11 回	建築編 1 教会建築にみる様式の発展	ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで
第 12 回	建築編 2 プランデンブルク門と新古典主義	ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。

第 13 回	建築編 3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義	「メルヘン王」ルートヴィヒ 2 世の道楽が観光資源になるまで。
--------	--------------------------	---------------------------------

第 14 回	建築編 4 ユーゲン・トシュティルから表現主義建築へ	19 世紀末から 20 世紀初めに出現した新しい建築の潮流
--------	----------------------------	-------------------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

Introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない？ —とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45 年）を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19 世紀から 20 世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第 2 回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第 3 回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第 4 回	第一次大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第 5 回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。

第 6 回 大衆文化と芸術

第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。

第 7 回 ナチズムと芸術

ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実態を明らかにする。

第 8 回 ナチズムのもとでの芸術家たち

沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。

第 9 回 第二次世界大戦と芸術

国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。

第 10 回 ホロコーストと芸術

悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。

第 11 回 「過去の克服」と芸術

ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。

第 12 回 「ベルリンの壁」の建設（1961 年）

冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。

第 13 回 「ベルリンの壁」の崩壊（1989-90 年）

東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制 (20～30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ※オンライン実施予定	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	バラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニュースポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

- | | | |
|----|------------------------------|----------------|
| 7 | ボールゴール型種目
・バスケットボール | ・バスケットボール理論と実践 |
| 8 | パラスポーツ
・ボッチャ | ・ボッチャの理論と実習 |
| 9 | ニュースポーツ (室内
競技)
・ユニホック | ・ユニホック理論と実践 |
| 10 | ネット種目
・バレーボール | ・バレーボール理論と実践 |
| 11 | ネット種目
・バレーボール | ・バレーボール戦術と実行 |
| 12 | ネットラケット種目
・卓球シングルス | ・シングルスゲーム理論と実践 |
| 13 | ネットラケット種目
・卓球ダブルス | ・ダブルスゲーム理論と実践 |
| 14 | ボールゴール型種目
・フットサル | ・フットサル理論と実践 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (20～30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	市谷体育館 1 階会議室「授業の説明 (内容・場所等)」
2	バドミントンを知る	「バドミントンの歴史とルールを知り」バドミントンのラケットとシャトルに慣れ、半面シングルスを行う
3	バドミントン基本練習とゲーム	基本練習 (サーブ・スマッシュ・レシーブ・ドロップ) とダブルスゲーム
4	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	卓球	基本練習とダブルスゲーム
6	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
7	バレーボール	対面により「基本練習とゲーム」
8	バスケットボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
9	バスケットボール	基本練習とゲーム

10	フットサル	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	フットサル	基本練習とゲーム
12	ユニホック	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
13	ユニホック	基本練習とゲーム
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」市谷体育館 1 階会議室

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。(2 時間以上)

地域の体育館等の一般開放で運動を行う (2 時間以上)

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60 %。

「2」課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと (話し合い) をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題 (ストレス・熱中症) を学ぶことで、健康の知識を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、コミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	市谷体育館 1 階会議室「授業の説明 (内容・場所等)」
2	バドミントンを知る	「バドミントンの歴史とルールを知り」バドミントンのラケットとシャトルに慣れ、半面シングルスを行う
3	バドミントン基本練習とゲーム	基本練習 (サーブ・スマッシュ・レシーブ・ドロップ) とダブルスゲーム
4	卓球	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・シングルスゲーム」
5	卓球	基本練習とダブルスゲーム
6	バレーボール	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
7	バレーボール	対面により「基本練習とゲーム」
8	バスケット	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
9	バスケットボール	基本練習とゲーム

10	フットサル	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
11	フットサル	基本練習とゲーム
12	ユニホック	対面により「歴史とルールの説明・基本練習・ゲーム」
13	ユニホック	基本練習とゲーム
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」市谷体育館 1 階会議室

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

動画を観てイメージアップをすること。(2 時間以上)

地域の体育館等の一般開放で運動を行う (2 時間以上)

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60 %。

「2」課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているので、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと (話し合い) をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題 (ストレス・熱中症) を学ぶことで、健康の知識を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、コミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制 (20～30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	スポーツ科学とは？	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
3	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール

4	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
5	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
8	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	サクセスフルエイジング	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
11	実技 ：ターゲット型②	ストレッチ・体操（フィットネス） ポッチャ、ベタングの基本的技術とルール
12	実技 ：その他の種目①	ストレッチ・体操（フィットネス） ドッジボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	実技 ：その他の種目②	ストレッチ・体操（フィットネス） フットサル、カバディ、3on3（ストリートバスケットボール）の基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報を目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から新規に授業を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題（少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など）や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目指す。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技とオンラインによる講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	健康とは? ~ WHO の健康の概念とその変遷~	WHO の健康の概念 JAMA 身体を健康を維持するしくくみ
3	実技 : 卓球①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
4	実技 : バスケットボール①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール

5	実技 ：バスケットボール②	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの実践的技術と 応用
6	生活習慣病とスポーツ 医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 ：卓球①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
8	実技 ：インディアカ①	ニュースポーツの理解 実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） インディアカの基本的技術とルール
9	実技 ：インディアカ①	ニュースポーツの歴史 ストレッチ・体操（フィットネス） インディアカの応用的技術と戦術
10	筋の構造と特性を活か したコンディショニング グ	骨格筋の量・質的変化 トレーニング適応 コンディショニング
11	実技 ドッチビー①	レクリエーションスポーツ ストレッチ・体操（フィットネス） ドッチビーの基本的技術と戦術
12	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
13	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつづいて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoom で行う)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。
なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。

3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのがぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設け、形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのがぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. ヨガの考え方を取り入れたストレッチングが理解できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoomで行う)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。

4	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨーガ思想と歴史 (講義および実習)	ヨーガ思想の起源や歴史について概説し、原始ヨーガ、古典ヨーガ、後期ヨーガなどを理解する。
7	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。 アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を理解し実践する。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガニードラについて説明し、実践を通じて、身体的、精神的変化を感じる。 またヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨーガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。

・出席が授業実施回数 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設け、形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内市谷体育館 1 階会議室）」
2	バドミントンを知る。	対面により「歴史とルールの説明」に打ってみる。
3	バドミントンの基本練習	ネットを挟み 1 対 1 で打ち合う。
4	バドミントンの基本練習	ショット練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）
5	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習と半面シングルスゲーム（リーグ戦）
6	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習とオールコートのシングルスゲーム（リーグ戦）
7	ダブルスゲーム	ダブルスのルール説明とゲーム
8	ダブルスのゲーム	ダブルスのゲーム（ペアは一回一回トランプで決める）

9	ダブルスのゲーム	学生がペアを決めてリーグ戦を行う
10	トリプルのゲーム	トリプルのルール説明とゲーム（トランプでペアを決める）
11	基本練習	苦手なショットの練習
12	団体戦	学生達により班を決める（シングルス・ダブルス・トリプルス）
13	ゲームフリー	ゲーム（行いたいゲームをこじんできめて行う）
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」AED の動画を観て使えるようにする）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。動画を観てイメージアップをすること。（2 時間以上）地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2 時間以上）

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 70 %。

「2」課題・レポート 30 % の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの歴史とルールを調べ、動画を観てイメージをつける。それにより競技を理解してから実技しているので、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前に「ルールと歴史を事前に調べる」「動画を観てイメージづくりをする」ことにより各種目を理解して受講する。

授業内容ではグループで行い、事前学習を生かした課題について話し合いをして目的達成をする。それによりコミュニケーション能力を身につける。なお授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	リモートにより「授業の説明（内市谷体育館 1 階会議室） （市谷体育館 1 階会議室）」
2	バドミントンを知る。	対面により「歴史とルールの説明」に打ってみる。
3	バドミントンの基本練習	ネットを挟み 1 対 1 で打ち合う。
4	バドミントンの基本練習	ショット練習（サービス・スマッシュ・レシーブ・ドロップ）
5	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習と半面シングルスゲーム（リーグ戦）
6	バドミントン基本練習とゲーム	スマッシュ・レシーブ・ドロップ練習とオールコートのシングルスゲーム（リーグ戦）
7	ダブルスゲーム	ダブルスのルール説明とゲーム
8	ダブルスのゲーム	ダブルスのゲーム（ペアは一回一回トランプで決める）

9	ダブルスのゲーム	学生がペアを決めてリーグ戦を行う
10	トリプルのゲーム	トリプルのルール説明とゲーム（トランプでペアを決める）
11	基本練習	苦手なショットの練習
12	団体戦	学生達により班を決める（シングルス・ダブルス・トリプルス）
13	ゲームフリー	ゲーム（行いたいゲームをこじんできめて行う）
14	総括	総括として「歴史とルールの理解度テスト・反省・感想」AEDの動画を観て使えるようにする）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。動画を観てイメージアップをすること。（2 時間以上）地域の体育館等の一般開放で運動を行う（2 時間以上）

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 70 %。

「2」課題・レポート 30 % の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

バドミントンの歴史とルールを調べ・動画を観てイメージをつける。それにより競技を理解してから実技しているので、倍の楽しさを感じています。

コロナ禍で友達と知り合うことが少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

来年度も引き続き場内で全員に声掛けをして、積極的にコミュニケーションをとっていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、軽い運動とトレーニングをしておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第 10 回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。

第 13 回 集団的技術（総合）・ゲーム チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。

第 14 回 授業総括と筆記試験 授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ (アウトドア) バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業 (スポーツ科学 B) は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	バレーボールニングについて・体力測定の意義 (講義)	バレーボールに必要な体力要素を理解し、体力測定の意義について講義する。
第 3 回	ビーチバレーのルールについて (講義)	ビーチバレーのルールについて資料を配布し説明する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習 (実習&講義)	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用 (実習&講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎 (実習&講義)	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術 (レセプション戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (レセプション) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術 (トスアップ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (トスアップ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術 (ディグ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (ディグ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術 (スパイク戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (スパイク) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 12 回	集団的技術 (ブロック戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (ブロック) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 13 回	集団的技術 (総合的)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (70%) を主な基準として、レポート (30%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

- 1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツ

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ・身体活動を通して、生涯に渡って健康的な生活を営むために必要な知識の習得と生活習慣の形成を目指す。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③様々なスポーツ参加の方法について学び、ライフステージに応じた運動習慣を自ら考えることができる力を身につける。
- ④運動・スポーツを通じて他者とのコミュニケーションをはかり、協調性やチームワークを通じた問題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 9 回程度、教室での講義を 5 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。また、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング・ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
4	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のテクニック・試合について学ぶとともに、視覚障害のある人に親しまれている卓球について学ぶ。
6	体づくりとトレーニング (講義および実習)	健康的な体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。

7	スポーツ栄養学 (基礎) (講義)	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。
8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	様々なスポーツ参加の方法とパラ（障害者）スポーツ (講義)	様々なスポーツ参加の可能性について、パラスポーツを基に考える。
11	ボッチャ (講義および実習)	パラリンピック競技の 1 つであるボッチャについて学ぶ。
12	バレーボール・シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の 1 つであるシッティングバレーボールについて学ぶ。
13	スポーツ栄養学 (応用) (講義)	第 7 回の授業を踏まえ、豊かな食生活を心がけるために必要な実践的な知識を身につける。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
- ・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

- ・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire the knowledge and form the lifestyles necessary to lead a lifelong healthy life through exercise, sports, and physical activity.

【Learning Objectives】

- (1) To acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.

- (2) To acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student and social life.
- (3) To learn about various ways to participate in sports and to acquire the ability to develop their own exercise habits according to their life stages.
- (4) To communicate with others through exercise and sports, and to acquire problem-solving skills through cooperation and teamwork.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on the following: 60% on assignments (reaction papers, subtests, reports, etc.), 20% on final reports, and 20% on class participation. If you are absent from class or submit assignments after the deadline, your grade will be lowered. If attendance is less than two-thirds of the total number of times the class is held, the grade will be E because it is considered to be less than the number of hours required to obtain credit.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツ

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツ・身体活動を通して、生涯に渡って健康的な生活を営むために必要な知識の習得と生活習慣の形成を目指す。

【到達目標】

- ①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③様々なスポーツ参加の方法について学び、ライフステージに応じた運動習慣を自ら考えることができる力を身につける。
- ④運動・スポーツを通じて他者とのコミュニケーションをはかり、協調性やチームワークを通じた問題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 9 回程度、教室での講義を 5 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子、理解度や昨今のコロナウイルス感染症に関連する大学方針などを考慮し一部変更することがある。特に、春学期のスポーツ科学 A（生涯スポーツ）からの継続履修者がいる場合は、内容が多少変わる可能性がある。また、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング・ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
4	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のテクニック・試合について学ぶとともに、視覚障害のある人に親しまれている卓球について学ぶ。

6	体づくりとトレーニング (講義および実習)	健康的な体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
7	スポーツ栄養学 (基礎) (講義)	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。
8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	様々なスポーツ参加の方法とパラ (障害者) スポーツ (講義)	様々なスポーツ参加の可能性について、パラスポーツを基に考える。
11	ボッチャ (講義および実習)	パラリンピック競技の1つであるボッチャについて学ぶ。
12	バレーボール・シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基本について学ぶとともに、パラリンピック競技の1つであるシッティングバレーボールについて学ぶ。
13	スポーツ栄養学 (応用) (講義)	第7回の授業を踏まえ、豊かな食生活を心がけるために必要な実践的な知識を身につける。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this class is to acquire the knowledge and form the lifestyles necessary to lead a lifelong healthy life through exercise, sports, and physical activity.

【Learning Objectives】

- (1) To acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (2) To acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student and social life.
- (3) To learn about various ways to participate in sports and to acquire the ability to develop their own exercise habits according to their life stages.
- (4) To communicate with others through exercise and sports, and to acquire problem-solving skills through cooperation and teamwork.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on the following: 60% on assignments (reaction papers, subtests, reports, etc.), 20% on final reports, and 20% on class participation. If you are absent from class or submit assignments after the deadline, your grade will be lowered. If attendance is less than two-thirds of the total number of times the class is held, the grade will be E because it is considered to be less than the number of hours required to obtain credit.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: トレーニング

中澤 史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係 (講義及び実習)
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント (講義及び実習)
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ (講義及び実習)
9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ (講義及び実習)

10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題: 40 %
2. 授業への参画状況・各授業で取り組むリアクションペーパー: 60 %

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階会議室の予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Report assignments imposed during the final class: 40%.
2. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定（講義及び実習）
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）

10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終授業時に課すレポート課題： 40 %
2. 授業への参画状況・各授業で取り組みアクションペーパー： 60 %

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Report assignments imposed during the final class: 40%.
2. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。
- ④就業力（信頼関係構築や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず 2 年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技（卓球）	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
4	講義及び実技（バドミントン）	体力についての講義及びバドミントンの実践
5	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワークについての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技（フットサル）	リーダーの役割についての講義及びフットサルの実践
7	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
8	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
9	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングについての講義及び筋力トレーニングの実践
10	講義及び実技（アルティメット）	コミュニケーションについての講義及びアルティメットの実践

11	講義及び実技（卓球）	メンタルヘルスケアについての講義及び卓球の実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	エネルギー（栄養・水分）の補給についての講義及びバスケットボール実践 レポート課題の提示
13	講義「休養（睡眠）と健康」	休養（睡眠）と健康についての講義
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60 %
 - ②課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and reviewing time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20~30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力 (信頼関係や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技 (卓球)	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
4	講義及び実技 (バドミントン)	体力についての講義及びバドミントンの実践
5	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	チームワークの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技 (フットサル)	リーダーの役割についての講義及びフットサルの実践
7	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
8	講義「健康のための運動」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義
9	講義及び実技 (筋力トレーニング)	筋力トレーニングについての講義 及び筋力トレーニングの実践

10	講義及び実技 (アルティメット)	コミュニケーションの重要性についての講義及びアルティメットの実践
11	講義及び実技 (卓球)	メンタルヘルスケアについての講義及び卓球の実践
12	講義及び実技 (バスケットボール)	エネルギー (栄養・水分) の補給についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及「休養と健康」	休養 (睡眠) と健康についての講義
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA	
教養ゼミ I	2017 年度以降入学者
サブタイトル：トレーニングの科学と実践・基礎	
伊藤 マモル	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 3/Mon.3	
単位数：2 単位	
※定員制	
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

このゼミナールは2年生以上が対象です。
トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的に応じたトレーニング方法**に着目した**研究を計画し、その効果を検証**していくゼミナールです。

履修者自ら作成した**トレーニング・プログラムを実践**していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形態でゼミを開講します。しかし、Covid-19の感染状況によっては、対面形態とオンライン形態を組み合わせたブレンド型で開講します。ブレンド型とは、ゼミ 14 回のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する方式です。

Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合は、ゼミの開講計画を変更し、学習支援システム（通称：Hoppii）で提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii または LINE などを通じて行う予定です。また、ゼミに関するリアクションペーパーなどにおいて税民相互に共有すべきと判断されたコメントは時間内で紹介しゼミ活動に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施

2	課題検討期 I ・測定	＜トレセン＞ ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期 II ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期 III ・トレーニング方法	＜教室＞ ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	＜教室＞ ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期 I ・トレーニングマシンの基本操作	＜トレセン＞ ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期 II ・トレーニングプログラム作成	＜トレセン＞ ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期 I ・トレーニング種目の仮決定	＜トレセン＞ ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期 II ・トレーニングプログラム種目の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期 III ・トレーニング強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期 IV ・トレーニング方法の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期 IV ・トレーニング方法の決定	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する

- 13 計画実行・効果検証期 <トレセン>
 ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定
 ②測定結果を分析・評価する
 ③これまでの学修過程の整理
 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
- 14 反省改善期・発表・総括 <教室>
 ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する
 ②秋学期の課題を検討する
 ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができ、ことに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

このゼミナールの単位を認定する評価は、**到達目標**に示した**5 項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. リアクションペーパーおよびレポート： **30 %**
2. 成果発表（レジュメ、発表のための資料、発表の態度など）：**70 %**

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は少人数制の教養ゼミであるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていたと思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて履修したようで、**2017 年度**および**2018 年度**の履修者は **25 名**以上となり、ゼミ中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、**2019 年度**のゼミにおいては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的なゼミ活動にしました。

しかしながら、**2020 年度**および**2021 年度**は Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、オンラインのリアルタイム双方向方式を導入したため、計画していた対面形態のゼミを断念した回がありました。

このゼミを履修した皆さんからの意見は、最終回のアンケートによって把握しました。その結果、オンラインに対する評価や感想は非常に良かった印象です。対面においても自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンラインの方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしなかったなどの意見も寄せられました。

2022 年度は **2021 年度**の反省を踏まえ、新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業 1 回目のガイダンスにおいて、履修希望者が **10 名**を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1 を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a seminar for students to enhance their education on health promotion in the future. The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

【Learning Objectives】

- 1: Safe use of training equipment
- 2: Able to use various measurement methods applied to training equipment.
- 3: To be able to evaluate training effects based on measurement results
- 4: To be able to implement training methods according to the purpose
5. To be able to record the results of training correctly
- 6: To be able to present the learning process of verifying the training effect.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation for awarding credits for this seminar will be based on the following criteria for the five items indicated in the achievement objectives.

- 1) Reaction papers and reports: 30%.
- 2) Presentation of results (resume, materials for the presentation, attitude toward the presentation, etc.): 70%.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの科学と実践・応用

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日 3 限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者が履修**できます。

基本的な開講形態は教養ゼミⅠと同様ですが、**各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証**することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形態でゼミを開講します。しかし、Covid-19 の感染状況によっては、対面形態とオンライン形態を組み合わせたブレンド型で開講します。ブレンド型とは、ゼミ 14 回のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する方式です。

Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合は、ゼミの開講計画を変更し、学習支援システム（通称：Hoppii）で提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii または LINE などを通じて行う予定です。また、ゼミに関するリアクションペーパーなどにおいて税民相互に共有すべきと判断されたコメントは時間内で紹介しゼミ活動に活かします。

教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（**履修者は授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの 1 回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように 3 期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 Ⅰ・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成
2	課題・計画の検討期 Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	＜トレセン＞ ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期 Ⅲ・測定結果の評価	＜教室＞ ①グループワーク ②授業の 1 回目および 2 回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 Ⅰ・測定結果の共有	＜教室＞ ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 Ⅱ・トレーニング方法の再検討	＜教室＞ ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	＜トレセン＞ ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	＜トレセン＞ ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

- | | | |
|----|------------------------------|---|
| 11 | 実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定 | <トレセン>
①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する
②実施した内容を正確に記録する
③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する |
| 12 | 実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証 | <トレセン>
①グループワーク
②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定
③測定結果を分析・評価する
④リアクションペーパー作成 |
| 13 | 発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析 | <トレセン>
①グループワーク
②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する
③リアクションペーパー作成 |
| 14 | 発表・共有期Ⅱ、総括 | <教室>
①グループワーク
②トレーニング効果の検証結果を発表する
③リアクションペーパー作成 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
3. プレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

このゼミナールの単位を認定する評価は、**到達目標**に示した**5 項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. リアクションペーパーおよびレポート： **30 %**
2. 成果発表（レジュメ、発表のための資料、発表の態度など）：**70 %**

【学生の意見等からの気づき】

例年の傾向を振り返ると、本科目は少人数制の教養ゼミであるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になっていたと思います。

他方では、履修者の多くが先輩や知人から紹介されて履修したようで、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、ゼミ中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。そこで、2019 年度のゼミにおいては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的なゼミ活動にしました。

しかしながら、2020 年度および 2021 年度は Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、オンラインのリアルタイム双方向方式を導入したため、計画していた対面形態のゼミを断念した回がありました。

このゼミを履修した皆さんからの意見は、最終回のアンケートによって把握しました。その結果、オンラインに対する評価や感想は非常に良かった印象です。対面においても自分のペースでゼミ活動に取り組めた、他学部他学年との交流が進んだ、各自の研究時間が十分確保できたなど、オンラインの方が効率的であったという意見ばかりでした。半面、大学での実験や対面で意見交換やゼミ会をしなかったなどの意見も寄せられました。

2022 年度は 2021 年度の反省を踏まえ、新たなゼミの在り方に挑戦する年だと思います。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a seminar for students to enhance their education on health promotion in the future. The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

【Learning Objectives】

- 1: Be able to implement training methods according to objectives.
- 2: To be able to create a step-by-step plan to help achieve goals.
- 3: To be able to implement the step-by-step plan
- 4: To be able to verify the effects of training after a certain period of time.
- 5: To be able to present the verified training effects

【Learning activities outside of classroom】

Students have to take active acts in class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The evaluation for awarding credits for this seminar will be based on the following criteria for the five items indicated in the achievement objectives.

- 1) Reaction papers and reports: 30%.
- 2) Presentation of results (resume, materials for the presentation, attitude toward the presentation, etc.): 70%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ※オンライン予定	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	バラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ（室内競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル ・バスケットボール	・フットサル/バスケットボール理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（20～30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ボッチャ	・ボッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ (室内 競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル ・バスケットボール	・フットサル/バスケットボール理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同様の授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study Japanese sport culture.

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: エビデンスから学ぶ運動・食事と身体の変化

林 容市

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では「生理学的変化 (特に体脂肪・体組成を対象) に貢献する諸要因の理解」, 「健康関連指標 (特に体脂肪・体組成) の測定と評価」, 「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	身体組成 (体脂肪量・骨格筋) について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する (演習)
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 6 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因 (食事) について学ぶ
第 7 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する (プレゼンテーション)
第 8 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する (演習)
第 9 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する (演習)
第 10 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 11 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ (演習)
第 12 回	身体活動によって変化する生理的要因 5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ

第 13 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実態および自覚的運動強度について学ぶ (演習)
第 14 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成 (骨格筋の増減など) に向けた身体活動案を提案する (プレゼンテーション)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度 (授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価): 80%, 2) 各回のプレゼンテーションの内容: 20%, の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、可能な限り対面での授業を実施しましたが、履修者が少なく、測定等は時間をかけて実施できた一方、当初計画していた種々の演習が出来ない状況でした。そのため、履修学生の皆さんには、予定していた受講生間のディスカッションの機会を十分に提供することができませんでした。次年度の授業は、実際に自らの身体を測定・評価したり、食事内容を確認したりしながら、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生の履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

[Learning activities outside of the classroom] Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：心身の健康を可能にする情報・実践を探索

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状態を学ぶ
第 4 回	様々な対象における健康の考え方 3	健康行動（運動実践・食事改善）を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する（演習）
第 5 回	健康関連情報の取捨選択 1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第 6 回	健康関連情報の取捨選択 2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第 7 回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する（演習）
第 8 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第 9 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ
第 10 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「分析・評価」する手法を学ぶ
第 11 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第 12 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第 13 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する（演習）
第 14 回	探求テーマに関する集約結果の報告	探求テーマについて情報を集約・検討した結果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第 11 ～ 13 回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめの結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを 100 点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高点」(課題数 × 100)】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションがほぼできない状況でした。そのため、履修してくれた学生の期待に沿えなかった部分が多々あったと感じています。次年度は、2021 年度から内容を少し変更していますが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第 1 回目の授業において、履修希望者が定員（20 名）を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル: こころと体のコンディショニング

朝比奈 茂

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上、傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解できる。コンディショニングの要素となる身体的因子、環境的因子、心理的因子について、説明できる。コンディショニングの評価の必要性及び評価の方法について説明できる。トレーニング計画とコンディショニングについて理解し、ピリオダイゼーションの理論や背景について、説明でき、自身のトレーニング計画を立案できる。競技力向上のためのコンディショニングの具体的な方法について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつづいて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoom で行う)	講義全体のガイダンスとして今後の予定を含めて行う。 またコンディショニングの総論に関する講義を行う。
2	コンディショニングの要素	コンディショニングの要素である、身体的因子、環境的因子、心理的因子に関する講義を行う。
3	ホメオスタシス (恒常性)	人間に備わっているホメオスタシスについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我 (外傷および障害) について、説明し、その原因を対策について説明する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、損傷細胞の修復メカニズムについて説明する。
6	スポーツ外傷の応急処置	RICE 処置について、生体におこる効果 (変化) を説明し、実際にアイシングを試してみる。

7	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの実践	コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニングについて、方法を学び実践する。
8	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実習を行う。
9	スポーツマッサージとコンディショニング	マッサージの歴史や生理学的効果を学習するとともに、学生同士実践する。 セルフマッサージの手法を説明し学生自身で実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手 (愛好家) が比較的良好に利用する、鍼灸について、治効理論を説明し、実際の場面を実演する。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割 (効果) について講義を行う。
12	睡眠とコンディショニング	睡眠が果たすコンディショニングの役割について、その効果やメカニズムについて講義を行う。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割を説明する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受け

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。講義前日までに学習支援システム上に講義資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編, 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 (予防とコンディショニング)
2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. ヨーガ根本経典, 佐保田鶴治, 平河出版社
4. iRest Yoga Nidra, リチャード・ミラー

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの具体的な例を挙げ、実技を取り入れながら講義を行うことで、理解が深まりやすいと考えられる。
実技のポイントは繰り返し言葉にするように心がける。
提出された課題の内容について、授業の最初にフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 30 分の 1.5 時間を設け、形式は対面とオンライン (zoom) を併用する。

オフィスパワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students are expected to understand states of “condition” and learn the purposes, elements, evaluation methods of conditioning. Being in the good condition leads athletes to the better performance, resulting in the better competitive outcomes. This lecture guides student athletes to learn the basic conditioning program and competition preparation program and helps them acquire the ability to practice such programs.

【Learning Objectives】

Understand the many different types of conditioning.

To be able to explain the physical, environmental, and psychological factors that constitute conditioning.

To be able to explain the necessity of condition assessment and methods of assessment.

Understand training plans and conditioning, and be able to explain the theory and background of periodization, and formulate their own training plans.

Understand and be able to practice specific methods of conditioning to improve athletic performance.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！(改訂版)』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『デコ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30 %

②期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent. The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected

to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級 I と継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞 (つづき) ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21～69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進捗の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・数字 70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂版）』駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30 %

②期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ポピュリズムと世界 ～Go Global に疲れたあなたへ～

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化への反発を含むポピュリズムが、世界各国の政治を揺り動かしています。春学期科目であるこの教養ゼミ I 「ポピュリズムと世界 ～Go Global に疲れたあなたへ～」では、外国人嫌悪や、いわゆるアイデンティティ政治へのバックラッシュ、そして文化的「多数派」の有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてます。「21 世紀の社会において、私たちは、どのような文化を欲しているのか？」を中心的な課題としつつ、学生の皆さんから提供された話題や質問、意見交換を中心に、組み立てられているセミナーです。

【到達目標】

このセミナーの目標は、英語、日本語、またはその他の言語の使用に習熟することにはありません。

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるはずです：

1) 21 世紀の私たちの社会にどのような民主主義文化がふさわしいかという考え（シティズンシップ）を身につけるための第一歩を踏み出している。

2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なるが、こうした異なる意味合いに関する基本的な洞察を持っている。

3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

4) Google スライド、Google ドキュメント、Zoom の画面共有を使用したプレゼンテーションを通じて、自分の考えや気持ちを適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) このシラバスを執筆している 2022 年 2 月 10 日の時点では、2022 年 4-7 月期の感染拡大状況を予測することは困難です。感染状況が落ち着いている限り、対面授業をおこないますが、HyFlex や Zoom 録画を利用するなどして、欠席者にも配慮します。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。昨年度のこの授業でじっさいに提供された話題の一部を下記に掲載しますので、参考にしてください。

(ウ) 教科書の内容にかんする教員の説明と、学生からの質問や意見の交換をおこないます。

【昨年度のこの授業「教養ゼミ I」で学生の皆さんが提供してくださった話題（一部）】

漫画『ドラゴン桜』における桜井のスピーチとポピュリズムの比較；TV シリーズ「ファルコン&ウィンター・ソルジャー」において、国境を廃して富を分配することを目的とし、世界に溢れる移民・難民から支持されるテロ集団フラグスマッシューズ；小説『野良ビトたちの燃え上がる肖像』において、大企業を中心に富の集中が進み、野良ビトたちへの迫害が激化する世界で、生きるためにともに戦うヒトとネコ；『人新世の資本論』における気候ファシズム；アルゼンチンアリの世界をまたぐスーパーコロニー；漫画『ゴールデンカムイ』における入れ墨争奪戦、等

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供(教員) → 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か①	学生による話題提供 (の開始) → 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ポピュリズムの指導者②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ポピュリズムとデモクラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	ポピュリズムとデモクラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合は予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画 / Schedule】で予定されている教科書のページをあらかじめ読む。

(イ) 指定する LMS (Google Classroom) の場所に、話題提供用の資料 (リンクなどを含む) を授業開始時刻より前に貼りつける。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>
この教科書は法政大学図書館に所蔵がありますが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵があります。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵があります。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できます。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

クリストファー・ラッシュ『エリートの反逆』森下伸也訳、新曜社、1997 年。

E・E・シャットシュナイダー『半主権人民』内山秀夫訳、而立書房、1972 年。

マイケル・ヤング『メリトクラシー』窪田鎮夫&山元卯一郎訳、講談社エディトリアル、2021 年。

Raphaël Doan, Quand Rome inventait le populisme, Les Éditions du Cerf, 2019.

Olivier Dard, Christophe Boutin, Frédéric Rouvillois, Le Dictionnaire des populismes, Les Éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表 (話題提供 1 回 3 点) 55%
2. 授業参加の積極性 (授業中の討論における発言や質問) 30%
3. その他 (授業運営への貢献など) 15%

【学生の意見等からの気づき】

【授業の進め方と方法】に記載した【昨年度のこの授業「教養ゼミⅠ」で学生の皆さんが提供してくださった話題】から多くを学びました。これらの話題についての討論が授業時間のかかなりの部分を占めています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や学生からの話題提供に、Google Classroom や Hoppii、Zoom を使うため、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器と、自宅から接続する場合は、こうした機器やサービスを利用するうえで、十分な情報環境が必要です。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。

②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。

(※) この「教養ゼミⅠ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語Ⅰ」や「時事フランス語Ⅱ」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

- (a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
- (b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Presentations by students (3 points per topic) - 55%
2. Active participation in class (comments and questions during class debates) - 30%.
3. Other contributions to class management - 15%.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会と「文化や宗教の違い」をめぐる議論

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国境をまたいだ人の移住が多い今日の社会において、「文化や宗教の違い」を受け入れるとは、どういうことでしょうか？ 移民など少数派のあらゆる文化や宗教を、多数派が例外なしにすべて受け入れなければならないということでしょうか。逆に、少数派の側が、受け入れ国の文化や宗教に完全に同化しなければならない、ということでしょうか。秋学期科目である、この教養ゼミⅡでは、こうした「文化や宗教の違い」をめぐる理想と現実について、伝統的にリベラルかつ寛容な社会として知られてきたオランダにおける政策転換をひとつの事例としつつ、議論します。この科目は、学生の皆さんから提供された話題や質問、意見交換を中心に、組み立てられているセミナーです。

【到達目標】

このセミナーの目標は、英語、日本語、またはその他の言語に習熟することにはありません。

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるはずです：

- 1) 人口 1700 万人強のオランダが、なぜ（英語というよりは）オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう非ヨーロッパ系の移民に対し求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けつつ、ひとつの答えを構想することができる。
- 2) 「文化」や「宗教」が、国や歴史時代によっても異なる意味合いについて、基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。
- 4) Google スライド、Google ドキュメント、Zoom の画面共有を使用したプレゼンテーションを通じて、自分の考えや気持ちを適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) このシラバスを執筆している 2022 年 2 月 10 日の時点では、2022 年 9-12 月期の感染拡大状況を予測することは困難です。感染状況が落ち着いている限り、対面授業をおこないますが、HyFlex や Zoom 録画を利用するなどして、欠席者にも配慮します。

(イ) 対面、オンライン、いずれの授業形態においても、簡単な話題提供を学生の皆さんにお願いしています。昨年度のこの授業でじっさいに提供された話題の一部を下記に掲載しますので、参考にして下さい。

(ウ) 教科書の内容にかんする教員の説明と、学生からの質問や意見の交換をおこないます。

【昨年度のこの授業「教養ゼミⅡ」で学生の皆さんが提供してくださった話題（一部）】

イギリス・フランス・日本のワクチン政策や水際対策の違い； Milli 「塩と胡椒と鳥と思想警察」のおしゃれな旋律と、同化の凄惨さ； 黒人初のレイ・ヴィトン・メンズラインのディレクターとなったヴァーゼル・アブロー； 武蔵野市の外国人の住民投票を認める条例案にかんするメディア報道のあり方； 『虐殺器官』におけるジョン・ボールの「文法」とポピュリズム； 日本における移民の労働先としての某チェーン店； Mika の楽曲"Relax, Take It Easy"におけるレバノン内戦中に片目と夫を失った女性の語り； 英仏海峡における移民対策をめぐる対立； ベラルーシのルカシェンコ大統領による移民のポーランド国境への誘導； ラジ・リ監督の映画『レ・ミゼラブル』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈 列柱社会／オランダにおける「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 1-27 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供 → 教科書 28-57 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供 → 教科書 57-100 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供 → 教科書 100-111 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルトアイン	学生による話題提供 → 教科書 113-139 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	フォルトアイン党の躍進とフォルトアイン殺害	学生による話題提供 → 教科書 139-165 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供 → 教科書 165-182 頁の講読 → 掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供 → 教科書 182-193 頁の講読 → 掲示板への書き込み
11	ウィンデルス自由党の躍進	学生による話題提供 → 教科書 193-212 頁の講読 → 掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供 → 教科書 214-227 頁の講読 → 掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供 → 教科書 227-243 頁の講読 → 掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）【授業計画 / Schedule】で予定されている教科書のページをあらかじめ読む。
（イ）指定する LMS（Google Classroom）の場所に、話題提供用の資料（リンクなどを含む）を授業開始時刻より前に貼りつける。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な時間は、上記（ア）（イ）を行うのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

※図書館からの貸し出しを利用する場合は、下記を参考にしてください。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993 年。
永吉希久子『移民と日本社会』中公新書、2020 年。

Jan Willem Duyvendak et Marieke Slootman, « Les musulmans à l'intérieur de la « Maison néerlandaise » », Hommes & migrations, 1316 | 2017, 9-15.

【成績評価の方法と基準】

1. 学生による発表（話題提供 1 回 3 点）55%
2. 授業参加の積極性（授業中の討論における発言や質問）30%
3. その他（授業運営への貢献など）15%

【学生の意見等からの気づき】

【授業の進め方と方法】に記載した【昨年度のこの授業「教養ゼミⅡ」で学生の皆さんが提供してくださった話題】から多くを学びました。これらの話題についての討論が授業時間のかなりの部分を占めています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や学生からの話題提供に、Google Classroom や Hoppii、Zoom を使うため、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器と、自宅から接続する場合は、こうした機器やサービスを利用するうえで、十分な情報環境が必要です。

【その他の重要事項】

①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
（※）この「教養ゼミⅡ」における使用言語は日本語ですが、時事的な内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語Ⅰ」や「時事フランス語Ⅱ」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.

2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.

3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.

4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Presentations by students (3 points per topic) - 55%
2. Active participation in class (comments and questions during class debates) - 30%.
3. Other contributions to class management - 15%.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Au premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié sur quelques séances pour permettre un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1 ou plus) ou "kentei-shiken".

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- note de synthèse.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants

③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà. (仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence peuvent être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faut apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux.

Le travail par groupes est organisé en fonction du nombre des étudiants.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL. Mais les étudiants sont libres d'apporter ordinateur ou smartphone pour utilisation en cours (recherches sur internet, enregistrement de son ou d'image, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours de printemps se déroule en présenciel.

【Prerequisite】

Un niveau A2 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline (in English)】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from two to four hours.

This seminar-type course prepares directly for French proficiency tests (B1 or B2 levels) or for a stay in a french-speaking university.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), oral presentation (30%), final paper (30%).

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (15 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; la gestion de la crise Covid ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1 ou plus) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant une ou deux séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

Le travail par groupes sera organisé en fonction du nombre d'inscrits à ce cours.

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'utiliser ordinateur personnel ou smartphone (recherches sur internet, enregistrement de sons ou d'images, etc.).

【その他の重要事項】

En principe, ce cours d'automne se déroule en présenciel.

【Prerequisite】

Un niveau A2 est nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【Outline (in English)】

During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; Covid crisis in France; etc.

This is a seminar aimed at developing academic skills.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from two to four hours.

This seminar-type course prepares directly for French proficiency tests (B1 or B2 levels) or for a stay in a french-speaking university.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), oral presentation (30%), final paper (30%).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション (中 2017 年度以降入学者
・上級) A

PHILIPPE JORDY

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準 2 級・2 級) ainsi qu'aux séjours en France comme le Study Abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse en confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle lui permet aussi de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

Les corrections d'exercices ou de tests seront faites en classe mais l'on pourra aussi utiliser le système LMS (授業支援システム) pour une offre de documents supplémentaires ou des compléments de correction.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Faisons connaissance ! Présentation de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : C'est la vie (1)	Se présenter, parler de sa vie ; le passé composé
3	Unité 1 : C'est la vie (2)	Sorties et loisirs ; la phrase négative
4	Unité 1 : C'est la vie (3)	Le temps libre ; quizz
5	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (1)	Le(s) souvenir(s) ; l'imparfait
6	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (2)	Souvenirs de vacances ; pronoms de lieu "y" et "en"
7	Unité 2 : Souvenirs, souvenirs (3)	Souvenirs de lieux ; préparation au DELF A2 (compréhension des écrits)
8	Unité 3 : À la recherche d'un toit (1)	Le logement ; les pronoms relatifs

9	Unité 3 : À la recherche d'un toit (2)	Se loger à Montréal ou à Paris ; la comparaison
10	Unité 3 : À la recherche d'un toit (3)	Logements insolites ou futuristes ; les pronoms possessifs
11	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (1)	Les innovations des sciences et techniques ; le futur simple
12	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (2)	Smartphone et technologies de la communication ; la condition avec "si"
13	Unité 4 : On n'arrête pas le progrès (3)	Internet ; le pronom "on"
14	Récapitulatif du 1er semestre	Préparation du DELF A2 (la production écrite) Test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (au moins deux heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

Un dictionnaire - sous forme de livre - sera préféré à une application sur portable (ex. Le Dico, Hakusuisha).

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présenciel).

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about french society or culture will also be extended. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), tests, assigned papers & presentations (60%).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B

2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours continue de s'adresser à des étudiants de niveau A1 (2 ou 3 semestres de français déjà effectués). Lire, comprendre, parler, écrire, ces 4 compétences sont activement travaillées. Ce cours présente aussi des éléments de la société et de la culture françaises.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants de niveau A1 de progresser méthodiquement vers un niveau A2 complet. C'est donc une préparation directe aux examens DELF A2 ou "kentei shiken" (仏検準 2 級・2 級).

Il prépare aussi activement à un séjour en pays francophone.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Le manuel Édito A2 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier de travailler l'écrit ni d'étudier la grammaire et le vocabulaire de niveau intermédiaire. L'étudiant progresse avec confiance avec cette méthode complète et graduée. Elle permet aussi à l'étudiant de progresser seul en dehors des cours (révisions, compléments, périodes de vacances) grâce aux compléments du livre et aux ressources internet (site Didier).

Les corrections d'exercices ou de tests seront faites en classe mais l'on pourra aussi utiliser le système LMS (授業支援システム) pour une offre de documents supplémentaires ou des compléments de correction.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation du 2nd semestre Unité 5 : En forme ? (1)	Obligation et interdiction Le corps
2	Unité 5 : En forme ? (2)	Le subjonctif (1) La santé
3	Unité 5 : En forme ? (3)	Le subjonctif (2) Santé et médecine
4	Unité 6 : Côté cuisine (1)	Le pronom "en" Les aliments
5	Unité 6 : Côté cuisine (2)	Le superlatif Le restaurant
6	Unité 6 : Côté cuisine (3)	L'adverbe Spécialités gastronomiques
7	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (1)	Lequel ? Le physique

8	Unité 7 : Qui se ressemble, s'assemble (2)	Adjectifs indéfinis Le caractère
9	Unité 8 : L'actu en direct (1)	Cause et conséquence L'information
10	Unité 8 : L'actu en direct (2)	La place des pronoms COD et COI La presse et les médias
11	Unité 10 : On part en voyage ? (1)	Passé composé et imparfait Le voyage
12	Unité 10 : On part en voyage ? (2)	Les pronoms démonstratifs Le tourisme
13	Unité 12 : L'appel de la nature (1)	L'expression du but L'environnement
14	Unité 12 : L'appel de la nature (2)	La forme passive Les animaux

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est exigée. A la fin de chaque cours, des exercices ou devoirs thématiques sont donnés à préparer pour le cours suivant (au moins deux heures de préparation).

【テキスト（教科書）】

Édito niveau A2 ; Heu, Abou-Samra, Braud, Brunelle ; Éditions Didier ; ISBN : 978-2-278-08319-0

【参考書】

Un dictionnaire - sous forme de livre - sera préféré à une application sur portable

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 40%

Tests et devoirs : 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

Rythme de progression ralenti.

Importance du vocabulaire et de la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants sont libres d'utiliser leur ordinateur personnel ou leur smartphone pour faire des recherches internet ou enregistrer des sons ou images.

【その他の重要事項】

Le cours se déroule en classe (présentiel).

【Prerequisite】

Un niveau A1 en français est indispensable pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is designed for students with an A1 level (2 or 3 semesters of French already completed). Reading, listening, speaking and writing are actively worked on. This course also presents elements of French society and culture.

This course allows A1 level students to methodically progress to a full A2 level. It also actively prepares for a language stay in France.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given at each class for the next class (thorough review of vocabulary and grammar points; theme-related paper or presentation).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to four hours.

Grading criteria are as follows: in class contribution (40%), tests, assigned papers & presentations (60%).

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

- 第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
- 第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %、期末試験 80 %。
ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。
この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2（基本レベル）の受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介	テキストの読解、質疑応答、文法復習
2	職業	テキストの読解、質疑応答、文法復習
3	国籍	テキストの読解、質疑応答、文法復習
4	外国語	テキストの読解、質疑応答、文法復習
5	家族	テキストの読解、質疑応答、文法復習
6	街の中：モスクワ	テキストの読解、質疑応答、文法復習
7	モスクワ大学	テキストの読解、質疑応答、文法復習
8	モスクワのお店	テキストの読解、質疑応答、文法復習
9	お買い物	テキストの読解、質疑応答、文法復習
10	天気予報	テキストの読解、質疑応答、文法復習
11	ロシアの気候	テキストの読解、質疑応答、文法復習
12	好きな季節	テキストの読解、質疑応答、文法復習

13	復習	文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、出席および宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)、Zoom 授業になる場合に WiFi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (TPKI) A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	健康・お体調	テキストの読解、会話練習
2	病院・ロシアの医療体制	テキストの読解、会話練習
3	普通の日	テキストの読解、会話練習
4	「運命の出会い」	テキストの読解、会話練習
5	ロシアの週末	テキストの読解、会話練習
6	ダーチャの文化	テキストの読解、会話練習
7	赤広場	テキストの読解、会話練習
8	モスクワの美術館	テキストの読解、会話練習
9	ロシアの文学	テキストの読解、会話練習
10	ロシアのクラシック音楽	テキストの読解、会話練習
11	ロシアのスポーツ	テキストの読解、会話練習
12	ロシアの年中行事	テキストの読解、会話練習
13	お祝い	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業のプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)、Zoom 授業になる場合に WiFi 通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制 (20 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K II) A2 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 基本レベル (T P K II A2) の受験に向けて準備できること。

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介	会話練習、リスニング
2	週のスケジュール	会話練習、リスニング
3	1 日の流れ	会話練習、リスニング
4	趣味	会話練習、リスニング
5	街を歩く	会話練習、リスニング
6	モスクワの見物	会話練習、リスニング
7	買い物-1 (値段)	会話練習、リスニング
8	買い物-2 (お店にて)	会話練習、リスニング
9	食べ物	会話練習、リスニング
10	レストランの注文	会話練習、リスニング
11	家の話	会話練習、リスニング
12	部屋の話	会話練習、リスニング
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

There will be homework using the audio data in each lesson. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業の場合にスマートフォンやタブレット端末かパソコン、ヘッドセット及びインターネット環境が必要です。授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。

対面授業の場合にも Hoppi 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更されます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study in Russia or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the ТРКИ A2, as well as for those who have already passed the test in order to maintain their language skills.

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

※定員制（20 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験基本レベル（ТРКИ A2）の受験に向けて準備できること。

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業ですが、オンライン学習アプリケーションの利用によって教育効果を高めるために数回リアルタイムオンライン授業も実施する予定です。オンライン授業のスケジュールは 3 回目の授業以降に決めて学習支援システムにて周知します。

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは学習支援システムにてダウンロードができます。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「映画」	リスニング練習、会話練習
2	「私の行くところ」	リスニング練習、会話練習
3	「週末に行くところ」	リスニング練習、会話練習
4	「私の旅」	リスニング練習、会話練習
5	移動動詞のまとめ	リスニング練習、会話練習
6	「空港で」	リスニング練習、会話練習
7	「ロシアの祭日」	リスニング練習、会話練習
8	「プレゼントの文化」	リスニング練習、会話練習
9	「学習」	リスニング練習、会話練習
	動詞の体：プロセス	
	対 結果	
10	「私のすべきこと」	リスニング練習、会話練習
	動詞の体：反復 対	
	「今回」	
11	動詞の体：まとめ	リスニング練習、会話練習
12	体調の話	リスニング練習、会話練習
13	「病院で」	リスニング練習、会話練習
14	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

There will be homework using the audio data in each lesson.
The standard preparation and revision time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験範囲ははっきりしています。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業の場合にスマートフォンやタブレット端末かパソコン、ヘッドセット及びインターネット環境が必要です。授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。対面授業の場合にも Hoppi 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更されます。

【Outline (in English)】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills. This course is recommended for students who want to study in Russia or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the ТРКИ A2, as well as for those who have already passed the test in order to maintain their language skills.

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その 1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その 2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その 3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する 19 世紀科学」
7	テキスト講読（その 4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その 5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その 6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その 7）歴史	短文「アレクサンドル 1 世」、「ニコライ 2 世」
11	テキスト講読（その 8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その 9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その 10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。
授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】**Russian reading A.**

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その 1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第 1 節）」
2	テキスト講読（その 2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第 2 節）」
3	テキスト講読（その 3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第 3 節）」
4	テキスト講読（その 4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第 1 節）」
5	テキスト講読（その 5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第 2 節）」
6	テキスト講読（その 6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第 3 節）」
7	テキスト講読（その 7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第 4 節）」
8	テキスト講読（その 8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第 1 節）」
9	テキスト講読（その 9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第 2 節）」
10	テキスト講読（その 10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第 3 節）」

11	テキスト講読 (その 11) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』(第 1 節)」
12	テキスト講読 (その 12) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』(第 2 節)」
13	テキスト講読 (その 13) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』(第 3 節)」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳 (翻訳)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業はテーマ群ごとに 2 回の授業で構成する。1 回目の授業は課題配信型 (オンライン) とし、各自で記事の翻訳を行い、教員がその内容を添削する。2 回目の授業は対面形式で行い、記事の内容 (文法事項・語彙も含む) の確認およびディスカッションを行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	内政②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	外交①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	外交②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	宗教①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	宗教②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	文化①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	文化②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	ビジネス①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	ビジネス②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	テクノロジー①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	テクノロジー②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業はテーマ群ごとに 2 回の授業で構成する。1 回目の授業は課題配信型（オンライン）とし、各自で記事の翻訳を行い、教員がその内容を添削する。2 回目の授業は対面形式で行い、記事の内容（文法事項・語彙も含む）の確認およびディスカッションを行う。講読する文章は受講者の関心に合わせて選定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	新聞記事の講読およびディスカッション
3	社会②	新聞記事の講読およびディスカッション
4	司法①	新聞記事の講読およびディスカッション
5	司法②	新聞記事の講読およびディスカッション
6	経済①	新聞記事の講読およびディスカッション
7	経済②	新聞記事の講読およびディスカッション
8	環境①	新聞記事の講読およびディスカッション
9	環境②	新聞記事の講読およびディスカッション
10	スポーツ①	新聞記事の講読およびディスカッション
11	スポーツ②	新聞記事の講読およびディスカッション
12	ナショナリズム①	新聞記事の講読およびディスカッション
13	ナショナリズム②	新聞記事の講読およびディスカッション
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語の意味や文法事項を確認しながら日本語訳を準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつ」とば「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験 : 50 %
 ② 「e 宿題」(予習・復習状況) : 20 %
 ③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材 (e 宿題) を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, e 宿題: 20%, in class contribution: 30%

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材 (e 宿題) を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、初級の文法を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験 : 50 %
 ② 「e 宿題」(予習・復習状況) : 20 %
 ③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材 (e 宿題) を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, e 宿題: 20%, in class contribution: 30%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第 2 回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第 3 回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第 4 回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第 5 回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第 6 回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第 7 回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第 8 回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第 9 回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第 10 回	完了と変化	「了」の様子を学ぶ
第 11 回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第 12 回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第 13 回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60 %）と発表（40 %）で評価される。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第 2 回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第 3 回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第 4 回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第 5 回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第 6 回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第 7 回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第 8 回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第 9 回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第 10 回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第 11 回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第 12 回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第 13 回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第 14 回	まとめ	口頭ですとと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60 %）と発表（40 %）で評価される。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 中訳スキル リプロセッシングとパラフレーズ1	L 1 の逐次通訳演習 L 2 東京案内 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 2 の逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳 3 数字、固有名詞、リサーチ	L 3 の逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳 3 通訳の選択補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳 4 通訳 短期記憶強化 リプロセッシングとパズ フレーズ 2	L 5 の逐次通訳演習 L 6 日本事情 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 4 時事翻訳 1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳 5 既習単元の逐次通訳演習	L 6 の逐次通訳演習 L 1 ～ 6 の復習
13	翻訳 5 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
 通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
 通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に参考となる web サイト等は指定することがある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答状況	10 %
課題提出状況	20 %
期末テスト	70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。
 中国語の読解力がついた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined. Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time	10%
Submission of assignments	20%
Final examination	70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。
 課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 日中の制度等の違いを踏まえて通訳する 他	L 8 教育
3	翻訳 1	時事翻訳 1
4	通訳 2 分訳 パブリック・スピーキング	L 8 の逐次通訳演習 L 9 友好都市交流
5	翻訳 2	時事翻訳 2
6	通訳 3 外来語	L 9 の逐次通訳演習 L 10 ファッション
7	翻訳 3	時事翻訳 3
8	通訳 4 固有名詞・作品タイトル 接続詞処理	L 10 の逐次通訳演習 L 11 日本のポップカルチャー
9	翻訳 4	時事翻訳 4
10	通訳 5 IT 関連用語 数字	L 11 の逐次通訳演習 L 12 中国の IT 市場
11	翻訳 5	時事翻訳 5

12	通訳 6 既習単元の逐次通訳演習	L 1 2 の逐次通訳演習 L 8 ～ 1 2 逐次通訳演習
13	翻訳 6	時事翻訳 6
14	通訳 翻訳 総復習 到達度チェック	既習内容の総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
 通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
 通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に、参考となる web サイト等を指定することはある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答	10 %
課題提出状況	20 %
期末テスト	70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。
 通訳スキルの習得が非常に参考になった。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time	10%
Submission of assignments	20%
Final examination	70%

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期は HSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。

※初回と最終回はオンラインで、それ以外は対面（ハイフレックス型を含む）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に配布した単語を覚えてきてください。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）

そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（授業内で扱った内容の確認テスト）50 %

②授業参加度（取り組み状況、単語の確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料なども提示しながら、文章の内容をイメージできるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期は HSK 4、5 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（授業内で扱った内容の確認テスト）50 %

②授業参加度（取り組み状況、単語の確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料なども提示しながら、文章の内容をイメージできるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANc300LA

資格中国語中級 A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取る。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、HSK (漢語水平考試) の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK (漢語水平考試) とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション (全文の聞き取り) を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト (前回の学習内容の復習テスト) [約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション (全文聞き取り) を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 (他) 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京: 同文社
- ・守屋宏則 (他) 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.

(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.

・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック HSK 合格の基準 HSK 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のまとめ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習 (400 字) 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習	作文の問題点など
	翻訳	結果補語など
第 6 回	HSK5 級の練習	比較の表現
	翻訳	逆接の表現など
第 7 回	HSK5 級の練習	二重目的語
	翻訳	動詞述語文のまとめ
第 8 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習 (400 字)
第 9 回	HSK5 級の練習	作文の問題点など
	翻訳	練習問題
第 10 回	HSK5 級の練習	連用修飾語
	翻訳	前置詞など
第 11 回	HSK5 級の練習	主語になる動詞句
	翻訳	慣用形など
第 12 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習 (400 字)
第 13 回	HSK5 級の練習	作文の問題点
	翻訳	翻訳の練習
第 14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されていました。続けてこのやり方でやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc300LA

資格中国語上級 B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は今まで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めることを目指します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、次の授業の時に全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
12 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その文法を学習してきちんとした課題を提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』および、「吃货（くいしんぼう）」のための食エッセイ『吃货辞典』（崔岱遠著、2014 年、商務印書館/邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）などを教材として用いながら、中国の食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・中国の映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して中国の食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 崔岱遠『吃货辞典』2014 年、商務印書館（邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房）の中から、料理をいくつかピックアップして一緒に読んでいきます。内容について事前に複数人にあてますので、簡単に調べて発表してもらいます。
 2. 適宜、「舌尖上的中国」の内容に関するスクリプト（簡体字・ピンイン付）を事前に配布しますので、各自で予習をしてください。映像を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行い、内容への理解を深めます。
 3. 毎回授業の終わりに授業内容に関するリアクションペーパーを提出してもらいます。
- 翌週の授業内で前回のリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。
- 中国語文献をあつかう際は読解に重点を置いてゆっくり進めます。初修中国語（1 年間）の学習歴が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	北京の「炸醬麵」（1）	『吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「炸醬麵」にかんする調査・発表
3	北京の「炸醬麵」（2）	前回のつづき。 （「炸醬麵」にかんする映像資料『中国麵ロードを行く』等）
4	清明節の行事食「青团」	『吃货辞典』（『中国くいしんぼう辞典』）の「青团」にかんする調査・発表

5	端午節の行事食「粽子」(1)	『吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「粽子」にかんする調査・発表
6	端午節の行事食「粽子」(2)	前回のつづき。 (「粽子」にかんする映像資料『舌尖上的中国』)
7	天津の「煎餅果子」(1)	紅さんの露店の「煎餅果子」にまつわる物語(映像資料『舌尖上的中国』)
8	天津の「煎餅果子」(2)	紅さんの露店の「煎餅果子」の秘訣(映像資料『舌尖上的中国』)
9	天津の「煎餅果子」(3)	地域に愛される紅さんの露店の「煎餅果子」(映像資料『舌尖上的中国』)
10	「煎餅果子」(4)	『吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「煎餅」にかんする調査・発表
11	広州の早茶と「叉焼包」(1)	陳助がつくる「叉焼包」(映像資料『舌尖上的中国』)
12	広州の早茶と「叉焼包」(2)	陳助がつくる「叉焼包」と点心四天王(映像資料『舌尖上的中国』)
13	ふりかえり	春学期のふりかえりと復習
14	まとめ	期末レポートの(中間)発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教場で指示します。

【参考書】

崔岱遠著『吃貨辞典』、2014 年、商務印書館(邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房)
CCTV「舌尖上的中国」

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度: 60 % (担当箇所の発表・翻訳や感想の提出状況)
②期末レポート: 40 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料などを使い、分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper: 40%, in class contribution: 60%

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 中国の食文化

岩田 和子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

※定員制

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台(CCTV)で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』および、「吃貨(くいしんぼう)」のための食エッセイ『吃貨辞典』(崔岱遠著、2014 年、商務印書館/邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房)などを教材として用いながら、中国の食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・中国の映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・中国の地理、地域の特色、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して中国の食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

1. 崔岱遠『吃貨辞典』2014 年、商務印書館(邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房)の中から、料理をいくつかピックアップして一緒に読んでいきます。内容について事前に複数人にあてますので、簡単に調べて発表してもらおう予定です。
 2. 適宜、「舌尖上的中国」の内容に関するスクリプト(簡体字・ピンイン付)を事前に配布しますので、各自で予習をしてきてください。映像を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行い、内容への理解を深めます。
 3. 毎回授業の終わりに授業内容に関するリアクションペーパーを提出してもらいます。
- 翌週の授業内で前回のリアクションペーパー等に対するフィードバックを行います。
- 中国語文献をあつかう際は読解に重点を置いてゆっくり進めます。初修中国語(1 年間)の学習歴が必要です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	「苦」味を代表する「陳皮」(1)	「陳皮」について(映像資料『舌尖上的中国』等)
3	「苦」味を代表する「陳皮」(2)	澳門のあるレストランの「陳皮鴨」(映像資料『舌尖上的中国』)
4	「酸」味を引き出す調味料	鎮江の黒醋について(映像資料『舌尖上的中国』)
5	「辣」味を引き出す調味料	豆板醬について(映像資料『舌尖上的中国』)
6	豆板醬を使った「宮保丁鶏」	『吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「宮保丁鶏」にかんする調査・発表

7	「麻辣」味の料理	「藤椒魚」と重慶の「麻辣火鍋」(映像資料『舌尖上的中国』)
8	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」(1)	『吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「燙干糸」にかんする調査・発表
9	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」(2)	吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「獅子頭」にかんする調査・発表
10	淮揚料理「燙干糸」と「獅子頭」(3)	冶春茶社の「燙干糸」と「獅子頭」(映像資料『舌尖上的中国』)
11	甘肅省蘭州の「牛肉麵」(1)	『吃貨辞典』(『中国くいしんぼう辞典』)の「牛大碗」にかんする調査・発表
12	甘肅省蘭州の「牛肉麵」(2)	蘭州「牛肉麵」の作り方(映像資料『舌尖上的中国』等)
13	ふりかえり	秋学期のふりかえりと復習
14	まとめ	期末レポートの(中間)発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教場で指示します。

【参考書】

崔岱遠著『吃貨辞典』、2014 年、商務印書館(邦訳書『中国くいしんぼう辞典』2019 年、みすず書房)
CCTV「舌尖上的中国」

【成績評価の方法と基準】

- ①授業参加度：60 % (担当箇所の発表・翻訳や感想の提出状況)
②期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき映像資料等を使用しながら、分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper: 40%, in class contribution: 60%

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (40 名)

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0~10
3	自己紹介	リスニングと会話練習、スペイン語圏の名前
4	職業	名詞の性数、冠詞、数詞 11~20
5	曜日	リスニングと会話練習、スペインのバル
6	スペイン語圏諸国	数詞 21~30、形容詞、主格人称代名詞、動詞 ser
7	人や物の描写	リスニングと会話練習、市場での買い物
8	小テスト、頻度表現	数詞 31~100、直説法現在規則動詞
9	習慣	リスニングと会話練習
10	服装・持ち物	指示詞、所有詞
11	日付、時刻	リスニングと会話練習、年中行事
12	場所を表す表現	動詞 ser, estar, hay
13	方角	リスニングと会話練習、道順、住居の問取り
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（10 %）、期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日常生活	数詞 101～、直説法現在不規則動詞、直接目的格人称代名詞
2	旅行	リスニングと会話練習、スペイン語圏の世界遺産
3	買い物	語幹母音変化動詞、間接目的格人称代名詞
4	依頼、許可の表現	リスニングと会話練習、
5	義務の表現	動詞 tener, oír, decir, venir, ir
6	趣味	gustar 型動詞、前置詞格人称代名詞
7	体調	リスニングと会話練習
8	小テスト	不定語・否定語、天候の表現
9	スペイン語圏の気候と自然	比較・最上級、リスニングと会話練習
10	一日のスケジュール	再帰動詞
11	道順	無人称文、序数
12	料理のレシピ	数量表現、動詞の復習
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージの書き方
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻博子／野村明衣『彩りスペイン語』朝日出版社、2021 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（10 %）、期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語上級 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（40 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。

②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスをコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中 2017 年度以降入学者級 A

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で 10 個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの結婚式のお祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式のお祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のカトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF のお新しい語彙を覚えることと **Break Out Room** で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので、授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The spring semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.
2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 B

2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ZOOM でリアルタイムで行う。

Break Out Room を使って、決まった質問の練習から始める。その後復習をしてから、リスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習で新しい文章の理解を深めていく。最後に日本語からスペイン語への翻訳トレーニングもやる。

本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマスと新年の祝賀」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは **Hoppii** を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス 宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス シーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス イブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過 ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの大晦日の年 越しぶどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年 越しぶどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの1月6日の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りする PDF の新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う 10 個の質問の答えを言うように練習しておくことです。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The fall semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.

2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史をテーマとし、春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディスカッション、そして学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN97847503441157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション: 30 %、ディスカッションへの参加度: 30 %、学期末レポート: 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

- ・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
- ・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

ARSA300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スペイン語圏の文化と社会を読み解く

久木 正雄

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディスカッション、そして学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ 歴史的な理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30 %、ディスカッションへの参加度：30 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用の PC とアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

《Learning Objectives》 Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro)：語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro)：表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro)：文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas)：語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas)：表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas)：文法	教科書第 2 課の文法復習
8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares)：表現	教科書第 3 課の表現確認

10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べるなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: ○ グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla) : 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla) : 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla) : 文法	教科書第 6 課の文法復習
8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認

- 12 「ラビ」(El rabino)：教科書第 8 課の表現確認
表現
- 13 「ラビ」(El rabino)：教科書第 8 課の文法復習
文法
- 14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

